

令和 2 年度

金沢市埋蔵文化財調査年報

令和 3 年 4 月

(2021年)

金 沢 市

(金沢市埋蔵文化財センター)

例　　言

1. 本書は、金沢市文化スポーツ局文化財保護課および金沢市埋蔵文化財センターが令和2年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要、成果および結果を公表することを目的として刊行するものである。
2. 本書は、令和2年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査、分布調査、および教育・普及・啓発活動に関するを中心編集したものである。
3. 本書に掲載した埋蔵文化財の遺構・遺物等の写真は、それぞれの担当者が撮影した。
4. 各遺跡の遺跡番号は石川県遺跡・文化財情報システム（平成25年度版）及び金沢市遺跡地図に準拠している。

目　　次

1. 埋蔵文化財発掘調査等事業	04
2. 埋蔵文化財分布調査事業	44
3. 教育・普及・啓発活動事業	53
4. 組織	63

1. 埋蔵文化財発掘調査等事業

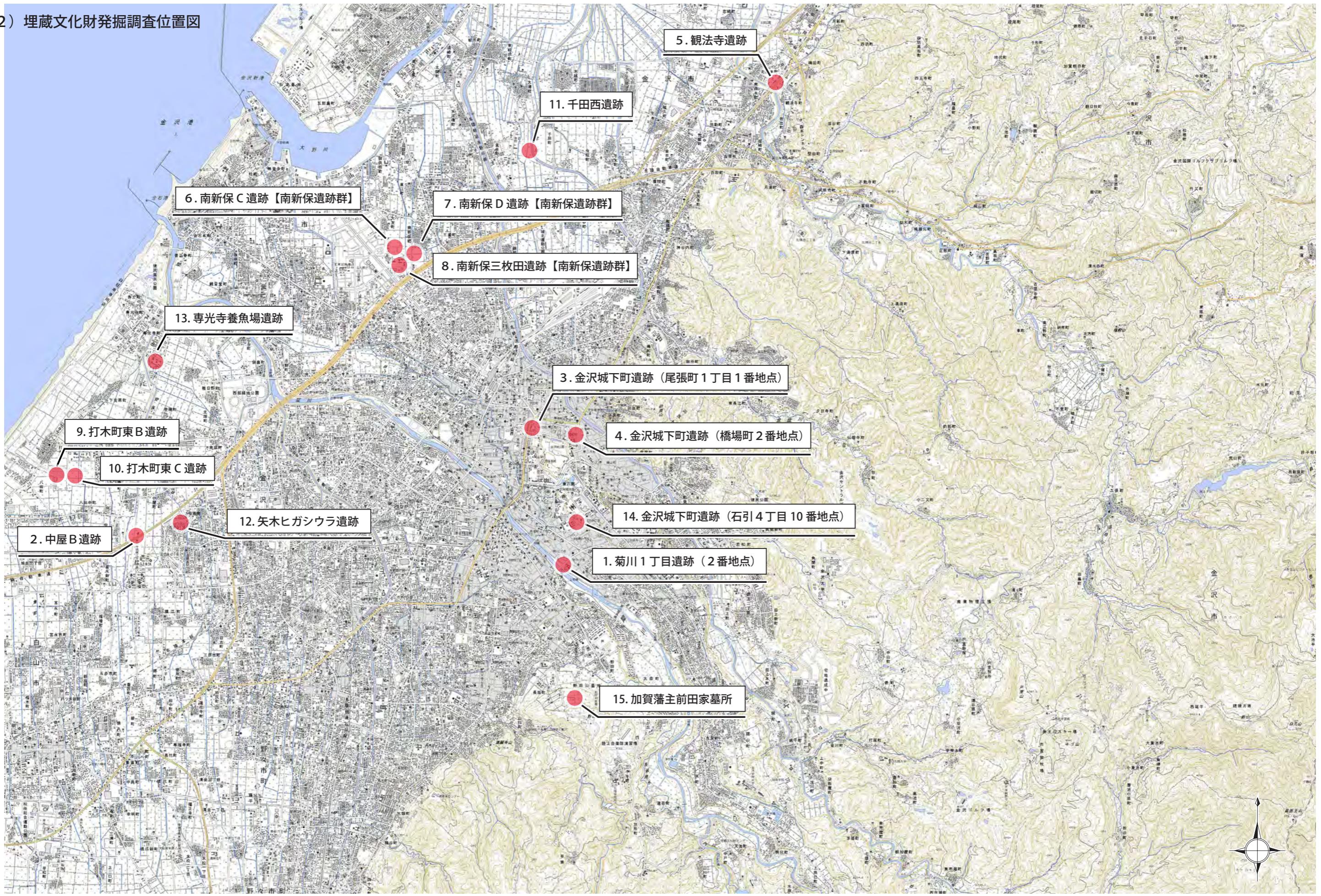
(1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No.	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
菊川1丁目遺跡(2番地点)										
1	金沢市 菊川1丁目地内	700m ² ×2面	小学校建設 (公 共)	20200217 ～ 20200730	沖積地	41,191	46箱	近世	道跡 側溝跡 屋敷 地跡 井戸等	近世陶磁器 近世土器 木製品 金属製品 石製品 古錢
中屋B遺跡										
2	金沢市 中屋町地内	2,660m ²	工業団地建設 (公 共)	20200220 ～ 20200831	沖積地	33,493	20箱	縄文 古代 弥生	ピット 土坑 溝	縄文土器 弥生土器 石製品 木製品
金沢城下町遺跡(尾張町1丁目1番地点)										
3	金沢市 尾張町1丁目地内	200m ² ×2面	宿泊施設建設 (民 間)	20200611 ～ 20200806	沖積地	8,535	15箱	近世	井戸 土坑 溝	陶磁器 土師器皿 石製品 金属製品
金沢城下町遺跡(橋場町2番地点)										
4	金沢市 橋場町地内	502m ² ×2面	分譲マンション 建設 (民 間)	20200618 ～ 20201113	沖積地	14,291	19箱	古代 近世	ピット 土坑 溝 石列	土師器 須恵器 陶器 近世陶磁器 石製品 木製品
観法寺遺跡										
5	金沢市 観法寺町地内	720m ²	宅地造成 (民 間)	20200623 ～ 20200822	沖積地	2,231	16箱	弥生 古代 古墳 中世	掘立柱建物 ピット 溝 川	弥生土器 土師器 須恵器 瓦 石製品 木製品
南新保C遺跡【南新保遺跡群】										
6	金沢市 南新保町地内	4,378m ²	土地区画整理 (受 託)	20200729 ～ 20210326	扇状地	104,700 (南新保遺跡群 で合算)	110箱	弥生 古代 古墳	方形周溝墓 円墳 豎穴式建物 土坑 平地式建物 川	弥生土器 土師器 須恵器 石製品 木製品 金属製品
南新保D遺跡【南新保遺跡群】										
7	金沢市 南新保町地内	969m ²	土地区画整理 (受 託)	20200910 ～ 20210326	扇状地	104,700 (南新保遺跡群 で合算)	12箱	弥生 古墳	溝 土坑 ピット	弥生土器 土師器 石製品 木製品
南新保三枚田遺跡【南新保遺跡群】										
8	金沢市 南新保町地内	1,312m ²	土地区画整理 (受 託)	20200915 ～ 20210326	扇状地	104,700 (南新保遺跡群 で合算)	13箱	弥生 古墳	溝 土坑 ピット 川	弥生土器 土師器 石製品 木製品
打木町東B遺跡										
9	金沢市 打木町東地内	5,000m ²	工業団地建設 (公 共)	20201026 ～ 20210302	沖積地	67,798 (打木町東C遺跡 と合算)	6箱	縄文 古墳 近世 弥生 古代	土坑 溝	縄文土器 弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器 土師器皿
打木町東C遺跡										
10	金沢市 打木町東地内	3,700m ²	工業団地建設 (公 共)	20201026 ～ 20210302	沖積地	67,798 (打木町東B遺跡 と合算)	5箱	弥生 古代 古墳 中世	井戸 土坑 溝 ピット	弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器 土師器皿

No.	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費（千円）	出土 遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
せんにしこじいせき 千田西遺跡										
11	金沢市 千田町地内	320m ²	道路建設 (公 共)	2020.11.09 ～ 2020.12.18	沖積地	9,881 (工事費含まず)	24 箱	弥生	ピット 土坑 溝	弥生土器 石製品
やぎ 矢木ヒガシウラ遺跡										
12	金沢市 矢木2丁目地内	106m ²	宅地造成 (民 間)	2020.11.11 ～ 2021.11.27	沖積地	1,520	1 箱	中世	土坑 溝 ピット 水田状凹地	陶磁器 土師器皿 木製品
せんこうじょうぎょうじょういせき 専光寺養魚場遺跡										
13	金沢市 専光寺町地内	684m ²	宅地造成 (民 間)	2021.03.01 ～ 2021.04.26	沖積地	1,187	5 箱	弥生	ピット 土坑 溝	弥生土器 石製品
かなざわじょうかまちいせき 金沢城下町遺跡 (石引4丁目10番地点)										
14	金沢市 石引4丁目地内	50m ² × 2面	個人住宅 (民 間)	2021.03.05 ～ 2021.03.26	台地上	1,937	4 箱	近世	ピット 土坑 溝	近世陶磁器・土器 石製品 金属製品 木製品
学術調査										
かがはんしゆまえだけぼしよ 加賀藩主前田家墓所										
15	金沢市 野田町野田山地内	10m ²	史跡整備 (公 共)	2021.03.09 ～ 2021.03.29	丘陵	1,441	なし	寛永 11 年 (1634)	五輪塔基礎構造	—

※「出土遺物数」は容量 36ℓ のコンテナケースに換算した数量である。

(2) 埋蔵文化財発掘調査位置図



1. 菊川1丁目遺跡（2番地点）

（遺跡番号 新発見のため番号なし）

所在地：金沢市菊川1丁目地内

北緯 $36^{\circ} 32' 59''$

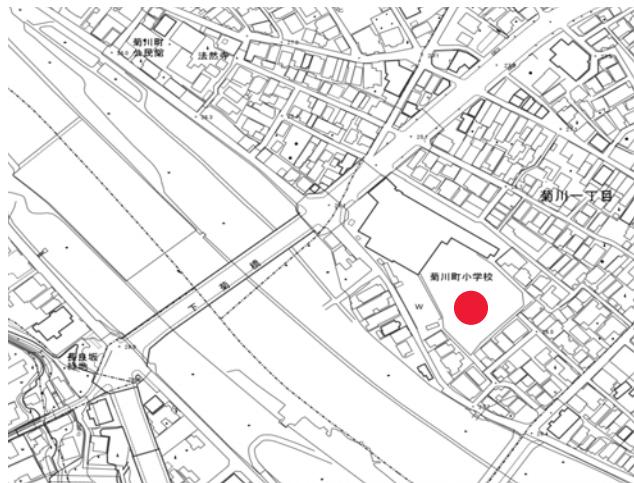
東経 $136^{\circ} 39' 45''$

調査面積：1,400m²

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：新出 敬子



■ 遺跡の概要

菊川町は金沢市中心部に隣接する犀川右岸に位置する町である。藩政期には割場組地となっており、割場付足軽の組地であった。調査地も足軽屋敷地の一角と考える。地名は川上新町と呼ばれ文政2年から天保9年まで芝居小屋があったことが『加賀志微』に記されており、1,700人を収容できる巨大な施設であったという。明確な位置は不明である。

発掘調査は金沢市立犀桜小学校建設に先立ち行ったもので、調査期間は令和2年2月17日～令和2年7月30日である。

調査面積は700m²×2面で、第1面は18世紀後半～近代にかけての遺構が確認できた。主な遺構は、道跡、側溝跡、屋敷地跡、井戸等で、特に第1面の屋敷地に関しては、裏口や台所の構造の手がかりが多く見つかっている。例えば、裏口では1間間隔の礎石が3点検出され、入口と板塀の礎石であることが、現存する足軽屋敷の裏口と酷似していることが判明した。また台所と考えられる空間では、浅い円形石組み井戸または水溜め跡から石組みの排水溝が家の外の溝へと流れ出すようになっていた。道跡は1面ではT字路になることが確認できたが、第2面ではL字であったことが分かったため、江戸時代における町割りの変化が窺える。

第2面では先述の道跡と井戸が多数検出された。屋敷割などは不明瞭であった。井戸は石組みが主体で、みつかった14基はほぼ道跡に近い位置で検出された。



1区全景



1区 SE01(石組み井戸)

2. 中屋B遺跡

(遺跡番号 県: 160700 市: 607)

所 在 地：金沢市中屋町地内

北緯 $36^{\circ} 33' 14''$

東経 $136^{\circ} 35' 02''$

調査面積：2,660m²

種 別：集落跡

主な時代：縄文、弥生、平安

担 当：庄田 知充



■ 遺跡の概要

中屋 B 遺跡は、第 2 次いなほ工業団地造成事業に伴い発掘調査を実施した。

金沢市南部の中屋 B 遺跡は、金沢市中心部から約 10km、海岸線から約 2km 離れており、海拔は約 5m を測る。遺跡の西側は白山市境に近く、昭和 32 年に市町村合併する前は石川郡安原村だった。「安原」の地名は「八洲原」に由来すると地元に伝えられており、かつては中小河川や水路により分割された微高地と低湿地が展開する土地であったと考えられる。調査地の西側には下福増遺跡、南側には中屋サワ遺跡が近接して分布し、平成 13 ~ 16 年度にいなほ工業団地造成事業に伴い発掘調査されている。本発掘調査は、分布調査で確認された埋蔵文化財包蔵地の形状で実施された。調査区は南北方向の市道により東西に分断されており、市道西側を「西区」、東側を「東区」とした。

西区は南北がやや長い L 字形の調査区として設定した。遺構検出面の標高は約 7m で、南から北方向に向けて緩やかに傾斜して下がる。遺構は、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、ピット等を検出した。掘立柱建物跡は西区中央部で 3 棟検出した。そのうち SB101 と SB102 の 2 棟が南北棟で並列する。SB101 は南北棟で、柱間距離は 2.7m 前後、2 間 × 5 間の側柱建物である。柱穴から土師器片が出土したことから構築時期は概ね古代と思われる。SB102 は南北棟で、SB101 西側に位置し、柱間距離約 2.3 ~ 2.6 m、2 間 × 4 間の側柱建物である。柱穴には抜き取り痕が見られることから、建替えをしている可能性が高い。SB101 とは位置関係や規模から同時期であると思われる。SB103 は SB102 の南側に位置する東西方向の柱穴列で、SB102 同様に抜き取り痕が見られることから別遺構とした。土坑は調査区内で数基検出した。そのうち平面円形を呈し深さ 30cm 程のものからは近世の遺物が出土している。溝跡は、東西方向に走行するものが多く、掘り込みが浅いものが大半であることから上部が削平されているものと思われる。古墳～古代の遺物が出土している。調査区南側で検出された幅が狭く蛇行する溝からは古代の遺物が出土しているが、不整形で自然木の根の痕跡の可能性がある。SD101 は東区 SD224 に連続する河川跡で、西区では調査区南東隅で東側肩部の一部として検出された。縄文土器が出土した。調査区北東隅で浅い落ち込みの SX113 を検出し、多量の土器片が出土した。

東区は南北方向に長い長方形の調査区として設定した。遺構検出面の標高は約 7 m で、南から北方向へ緩やかに傾斜して下がる。遺構は、溝跡（河川跡）、土坑、ピット等を検出した。SD201 は幅 7m 以上、深さ約 1.5 m の河川跡で、東区南東から北東方向へ流下し、SD211・SD212 等の支流が見られる。SD224 は古く SD201 が新しい。SD201・SD211・SD212 出土遺物は上層から弥生～古代の土器、中間層から弥生時代の土器や石器、下層から少量の縄文土器と弓 2 張りだった。SD201 の

中間層は腐葉土層で、多量の流木（自然木）が出土した。また、SD201 の北東部では多量の木材が川岸と併行する方向で柵列状に密集し倒伏した状態で出土した。また、密集する木材の一部は河川肩部や底部に下端を尖らせた木杭として川岸と併行する列状に打ち込まれていた。木材は長さ 1 m 前後で、木杭状に下端加工されたものが多くみられる。SD224 は SD201 と並流する平面形で、西区 SD101 と連続する河川跡である。地山流土が厚く堆積し下層から縄文時代の遺物が少量出土した。SD204 は調査区東壁際で検出し東西方向に流下する。堆積土から近・現代の河川跡と考えられる。土坑は、調査区中央部で数基検出した。平面橢円形を呈し、長径約 70cm で底面は平坦である。遺物は土器片がごく少量出土している。形状から、土坑墓の可能性があるが、副葬品等の出土はみられなかった。東区南側には蛇行する溝状の掘り込みが明確ではない遺構が多数検出されたが自然木の根の抜き取り痕であると考えられる。



西区 掘立柱建物 (SB101)



西区 掘立柱建物 (SB102・SB103)



西区 掘立柱建物 (SB101)・柱穴列



西区 柱穴 (SB101-P5) 底の小石と礎板



西区 落ち込み (SX113) 土器出土状況



西区 溝 (SD141・SD130・SD146)



西区 溝 (SD104)



東区 溝 (SD202)



河川跡 (SD201) 土器・流木出土状況



河川跡 (SD201) 栅列状木製品



河川跡 (SD201) 栅列状製品



河川跡 (SD201) 杭打ち込み状況



河川跡 (SD201) 出土弓



河川跡 (SD201) 出土塗り弓

3. 金沢城下町遺跡(尾張町1丁目1番地点)

(遺跡番号 新発見のため番号なし)

所在地：金沢市尾張町1丁目地内

北緯 $36^{\circ} 34' 15''$

東経 $136^{\circ} 39' 32''$

調査面積：200m² × 2面

種別：城下町

主な時代：江戸

担当 当：谷口 明伸



■ 遺跡の概要

本遺跡は金沢市尾張町1丁目地内に所在する江戸時代の遺跡である。民間宿泊施設建設に先立ち令和2年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施した。建設予定地はかつて北陸郵政局の敷地であり、その大部分は建物によって既に遺構が破壊されていたが、敷地内に併設されていた旧近江町郵便局の建物部分には遺構が残存していたため、当該箇所約200m²を対象に発掘調査を実施した。

調査地は金沢城から北に約200mに位置し、江戸時代においては北国街道から金沢城方面に向かう街道沿いに面して町家が建ち並ぶ商人地の一角にあたる。文化8年（1811）の『金沢町絵図』には調査区に該当する箇所に「高野彦助」「斎田屋助左衛門」「磯部屋伊兵衛」の名があり、同年の『金沢町名帳』には「日用頭 高野彦助」「京都中使・搗屋 斎田屋初左衛門」「米中買 磯部屋伊兵衛」と記されていて、文化8年時点での居住者とその職業が判明している。

調査地の基本層序は、現地表（標高21.8m付近）から約120cm下までが舗装及び造成土となり、標高20.6m付近で江戸時代の整地層が始まって上層の遺構が検出される。江戸時代の整地層は約40cmの厚さで堆積し、標高20.2m付近で地山となり下層の遺構が検出される。地山は暗褐色を呈する粘質土であるが標高18.8m付近からはにぶい黄褐色に変化する。なお、調査区約200m²のうち南端と中央部の一部には北陸郵政局建設当時のものと思われる搅乱層があり遺構が残存していない。

発掘調査では1基の井戸跡、計22基の土坑、3条の溝跡を確認し、容量36ℓの遺物箱に換算して15箱分の遺物が出土した。井戸跡（SE01）は長辺30cm前後の自然石を放射状に並べた井戸枠を持つ。井戸枠の石材は平滑な自然面を内面に向けるのみで面取りなどの平面調整を行ったものは見られない。内径は約1.0m、検出面から約1.7m掘り下げたが井戸底は検出されていない。土坑のうちSK01は石材を方形に組んだ小型の地下室跡と考えられる。四方の壁面は方形に切り出した石材を積み上げるが寸法や材質に統一性がなく、石材の一部に竈の転用材が見られ、隙間には自然石を間詰めに用いるなど、あり合わせの材で造られた感がある。SK03は径57cm・高さ40cmの石臼を地面に埋め込んでいる。前出の『金沢町絵図』に見える居住者の一人「斎田屋助左衛門」の生業である搗屋に関連する遺構の可能性がある。SK06は遺構の一部のみの検出であるが平面形は隅丸方形を呈すると思われ、遺構の底面からL字状の石積みが1～2段検出されている。溜升などの用途を想定したい。SK07は径80cm・高さ60cmの越前産の甕（かめ）を埋めた土坑で、甕の底には炭が堆積する。詳しい用途は不明。大型の土坑にはSK04,15,20,22等があって、規模や出土遺物から不要品を投棄したいわゆる「ゴミ穴」と考えられる。なお、今回の発掘調査で検出した遺構と遺物は全て江戸時代に属するものである。



遺跡全景（上層）



遺跡全景（下層）



SE01



SK01



SK03



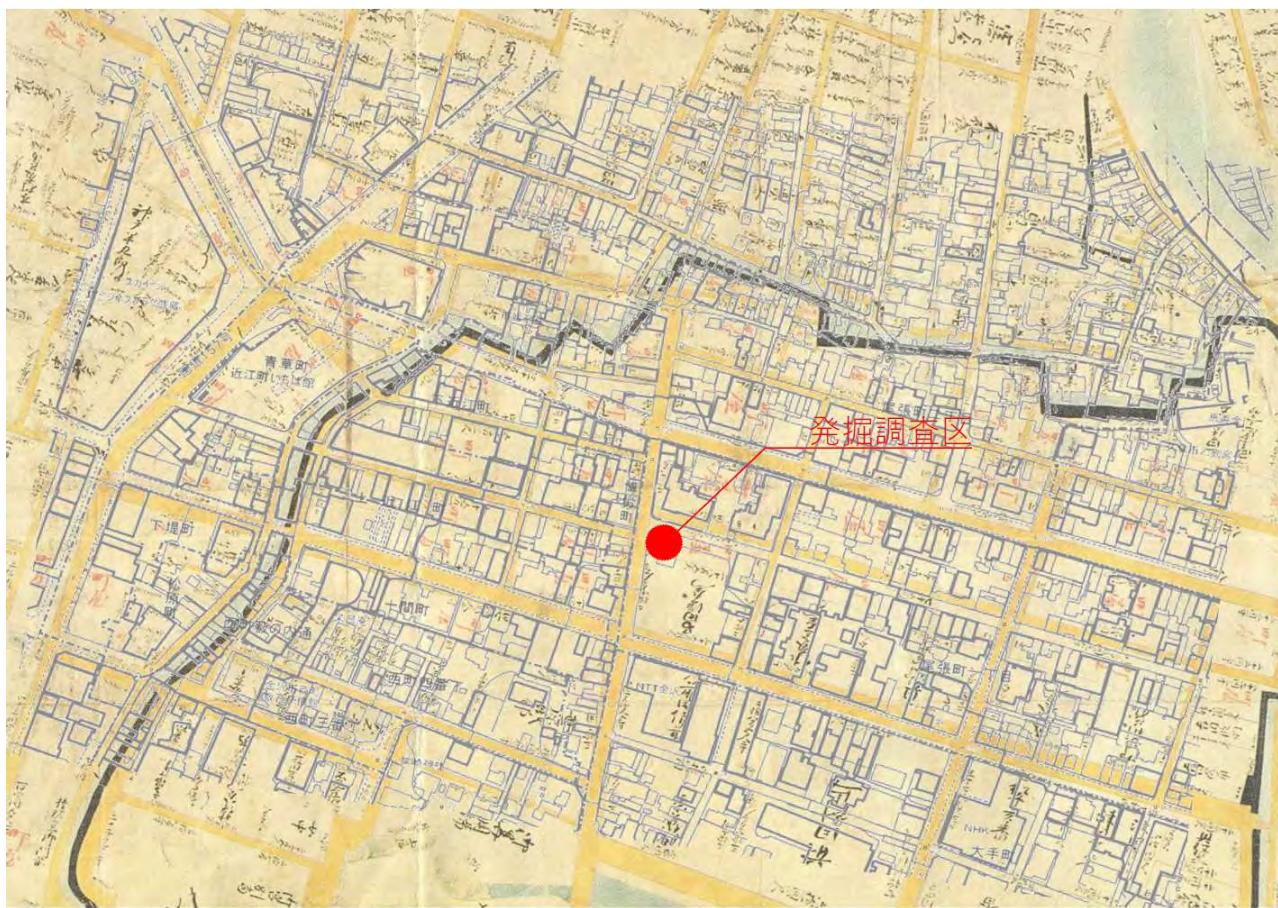
SK06



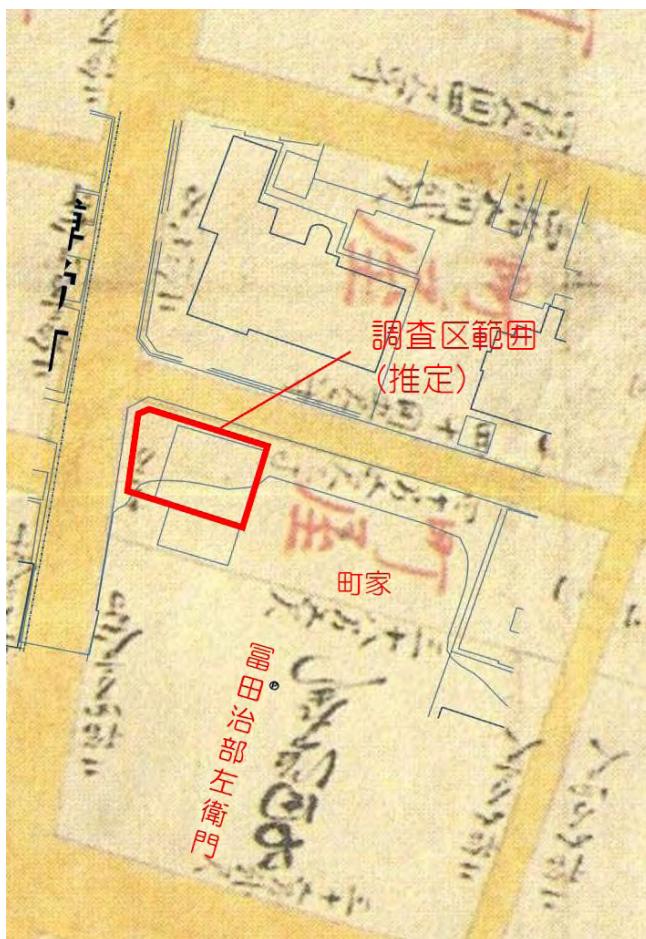
SK07



SK20



延宝金沢図（延宝年間、1673～1680）と現在の都市計画図との重ね合わせ



延宝金沢図の発掘調査区周辺



金沢町絵図の調査区周辺

4. 金沢城下町遺跡（橋場町2番地点）

(遺跡番号 新発見のため番号なし)

所 在 地：金沢市橋場町地内

北緯 36° 34' 10"

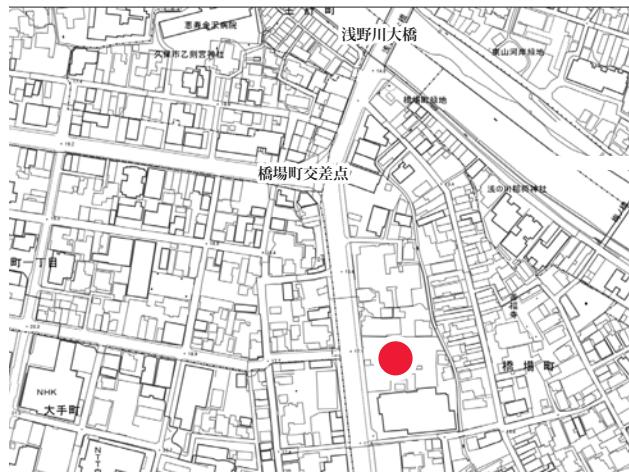
東経 136° 39' 51

調査面積：502m² × 2面

種 別：城下町

主な時代：平安、江戸

担 当：須貝 杏奈



■ 遺跡の概要

金沢城下町遺跡（橋場町2番地点）は、民間の分譲マンション建設工事に先立つ試掘調査で発見された遺跡である。江戸時代においては、東外惣構の西側に位置し、武家地の一角であった。

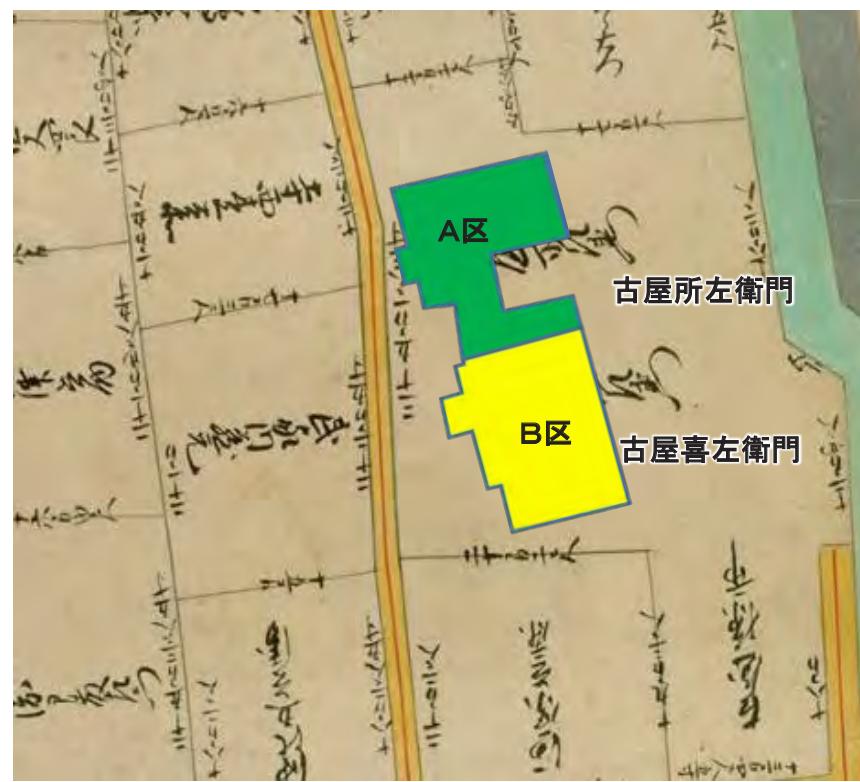
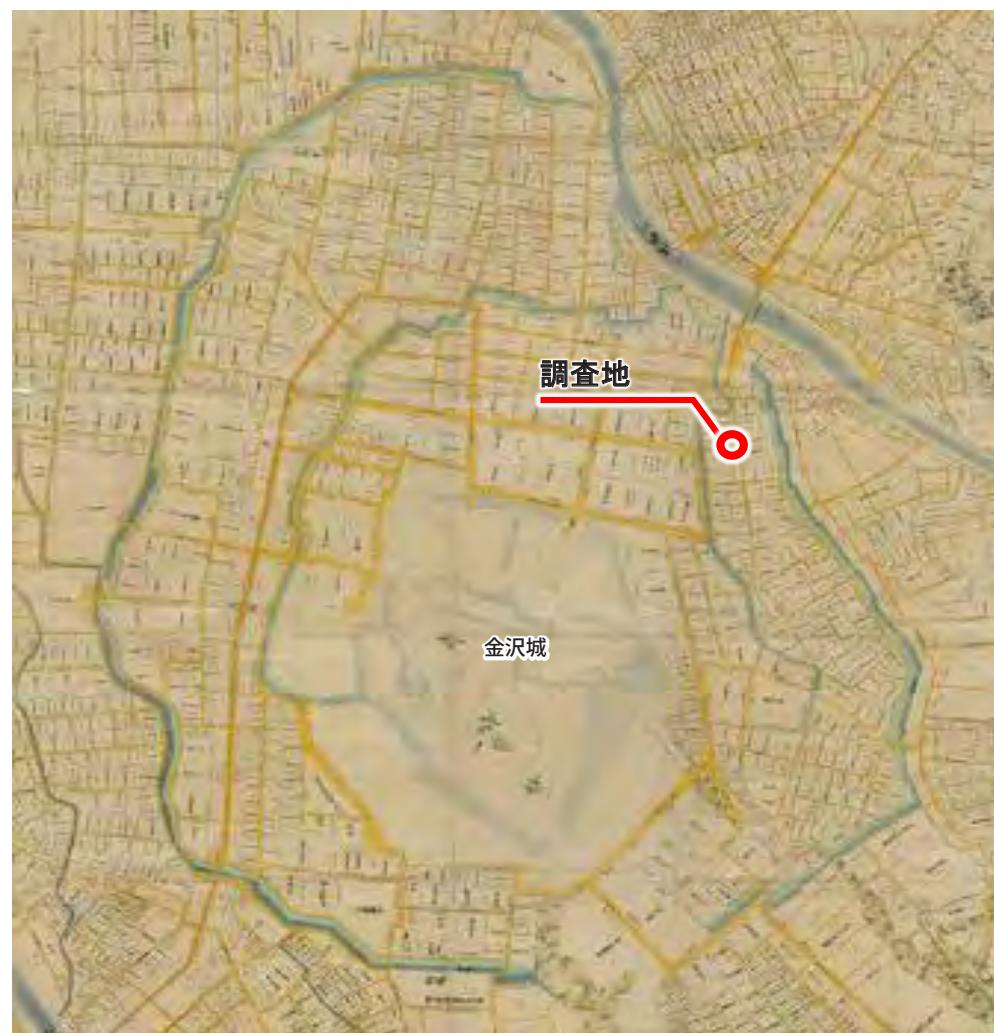
発掘調査では北側の調査区をA区、南側の調査区をB区とした。A区では土坑など29基、溝3条、井戸2基、石列2基、土塙跡2基の計38基の遺構を検出し、B区では土坑など34基、溝2条、石列5基の計41基の遺構を検出した。

A区は現地表（標高16.9m付近）から約0.7mまでが現代の整地面で、その下約1.0mの厚さで江戸時代の整地層が展開し、標高15.8m～15.2m付近で地山となっていた。上層からは直径40cm程度の平面円形の石組み遺構（SX07）が検出された。井戸としては規模が小さく、何らかの貯蔵設備と考えられる。また、漆喰の残存した石組み2基（SA15・SA16）も見つかり、これらは土塙の基礎跡とみられる。下層からは多量の陶磁器が混じった土坑（SK38）が見つかり、不用品を廃棄したいわゆる「ゴミ穴」であったと推測される。

B区は現地表（17.2m付近）から約0.7mまでが現代の整地面で、その下0.8m前後の厚さで江戸時代の整地層が展開し、さらにその下約0.7～1.0mの厚さで平安時代の包含層が広がっていた。B区上層からは江戸時代の土坑や柱穴が見つかったほかに、緩い曲線を描く石列（SA69）が検出された。これは区画境か池の縁石とみられる。また、下層からは17世紀（江戸時代初期）の遺物を含んだ溝（SD75）が見つかったほかに、9世紀の土師器や須恵器が多量に含まれる層が見つかった。

江戸時代の城下町絵図である寛文七年金沢図（1667年）によると、両調査区は武家地で、古屋所左衛門・古屋喜左衛門の屋敷地に該当する（右頁下段図、『寛文七年金沢図』における調査地（推定））。両調査区で検出された石列や、A区で検出された土塙の基礎跡は、敷地境などの何らかの区画を形成していたと推測できる。また、B区では池の縁石のような石列が見つかっていることから、当該地に庭が作られていた可能性も考えられる。今後の室内整理の実施によって遺物の年代が確定し、それに伴って遺構の変遷が判明することで、当時の武家の生活を解明する一助となることが期待される。

また、B区下層からは平安時代の遺物が多量に出土している。本遺跡の周辺では、広坂遺跡や金沢城下町遺跡（高岡町地点）、金沢城下町遺跡〔前田氏（長種系）屋敷跡地区〕などで同時代の痕跡を確認しており、本調査地でも金沢市街地における城下町形成以前の歴史を知る一例を得ることができた。



石川県立図書館蔵 『寛文七年金沢図』における調査地（推定）



A区上層全景（東から）



A区下層全景（南から）



A区上層石組み遺構検出状況（南から）



A区下層石組み遺構検出状況（南から）



B区上層全景（南から）



B区下層全景（北から）



B区上層土坑検出状況（西から）



B区下層出土須恵器（西から）

5. 観法寺遺跡

(遺跡番号 県:155200 市:077)

所 在 地：金沢市観法寺町地内

北緯 $36^{\circ} 37' 20''$

東経 $136^{\circ} 42' 07''$

調査面積：720m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、奈良、平安、鎌倉

担 当：向井 裕知



■ 遺跡の概要

観法寺遺跡は、金沢市の北東部に位置し、西側には河北潟を経て日本海へ至る森下川が北流する。北側には旧北国街道が東西に延びているが、本遺跡内で古代北陸道がみつかっていることから、古代以来の水陸交通の要衝であったことが知られる。

今回の発掘調査地は、古代北陸道が検出された調査地に隣接しており、弥生時代終末期から古墳時代前期の溝跡、及び奈良・平安時代の掘立柱建物跡が検出された。

遺構検出時は、調査区の東半分ほどが黒褐色シルトを基本とする遺構覆土が広がっていたため、それを SD01 として、トレーニングを設定して調査を進めた。全体的に約 50cm ほどの深さであったが、一部深くなる箇所があった（遺構全体図中の SD01 内赤色塗部、SD01a・SD01b）。SD01a・b からは、弥生時代終末期から古墳時代前期頃の土器が多く、完形品の鉢などが出土した。鉢の見込みには、植物遺体が残っており、溝内の堆積物もしくは当時の内容物である可能性が考えられる。平成 11 年に財団法人石川県埋蔵文化財センターが今回の調査区の北東側に隣接して発掘調査を実施しており（以下、県調査区）、SD01a は県調査区 SX01 からの延長、SD01b は県調査区 SD13 からの延長と考えられるが、今回の調査によって、両溝が同じ溝である可能性が高まった。

SD01 の上位層からは、8世紀後半から9世紀前半頃の土師器や須恵器が出土した。

須恵器の杯には「中越」墨書き土器があるが、場所や地名を示すのか、人名などかは不明である。県調査区では、「大主」と、「中」と、「福」墨書き土器の他、杯を硯に転用した転用硯が出土している。

SB01 は柱間 3 間 × 1 間以上の掘立柱建物で、県調査区でみつかった古代北陸道が延びる方位と同じ方位に傾いていることから、北陸道が機能していた 8 世紀後半から 9 世紀初頭頃までの建物と考えられる。

SB02 は柱間 5 間 × 1 間以上の掘立柱建物で、南北方向に軸を持っており、柱穴の規模が大型であることから、古代の建物跡と考えられる。

SB01 の柱穴である P01 からは、口の部分を打ち欠いたほぼ完形の須恵器の平瓶が出土した。建物に関するまじないのために埋納されたものであろうか。

多くはないが、須恵器瓦が出土することから寺院関連施設が調査区周辺にあったことが予想される。

その他、12世紀頃の中国産白磁碗や13～14世紀頃の中国産青磁碗、珠洲焼の甕やすり鉢も出土しており、中世段階にも集落などが営まれていたことが確認できた。



SD01 等検出状況



掘立柱建物等



SD01a 土器出土状況



P01 平瓶出土状況



SD01a



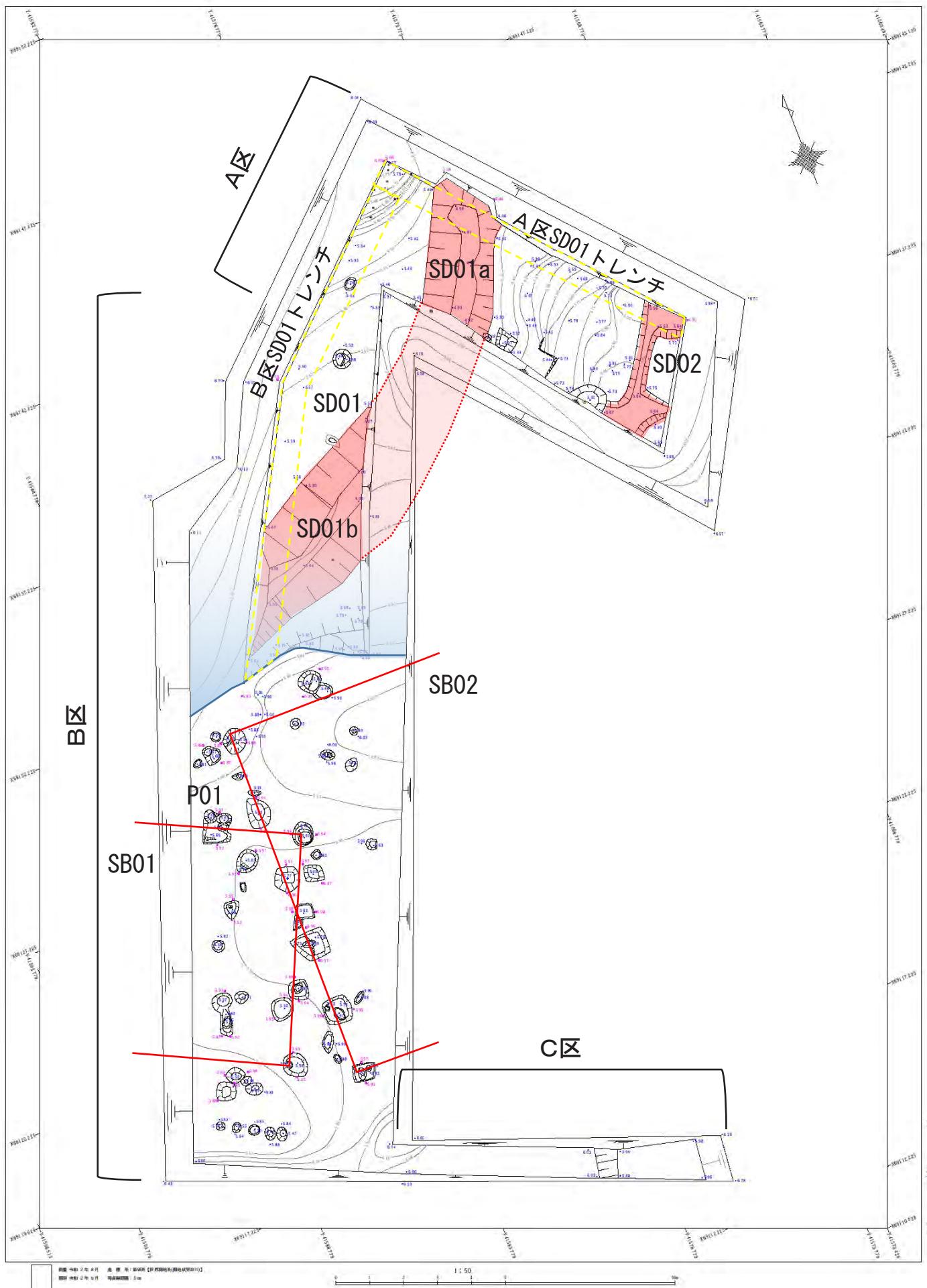
P13 柱根出土状況



SD01b



全景



遺構全体図 (S=1/150)

6. 南新保 C 遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 県: 142500 市: 149K)

所 在 地：金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 35' 35''$

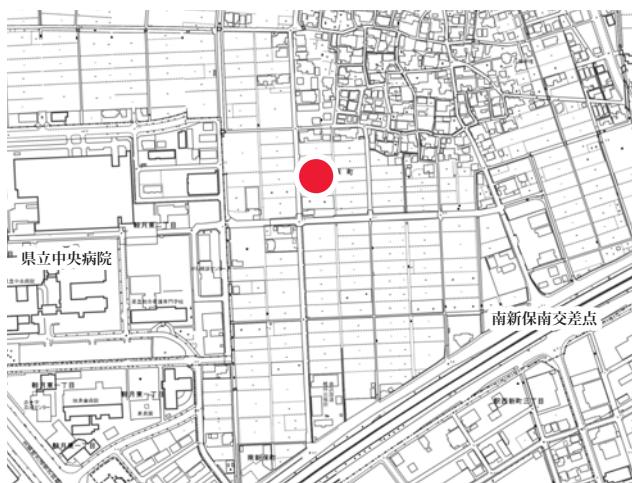
東経 $136^{\circ} 37' 56''$

調査面積：4,378m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、奈良、平安

担 当：向井 裕知、鏡 百恵



■ 遺跡の概要

〈南新保遺跡群について〉

南新保遺跡群は、金沢市南新保土地区画整理事業に伴い令和2年度～令和10年度（予定）の発掘調査が計画されている。初年度となる今年度の調査では、南新保 C 遺跡、南新保 D 遺跡、南新保三枚田遺跡の3遺跡の調査を行った。

南新保 C 遺跡、南新保 D 遺跡、南新保三枚田遺跡は金沢平野北部、犀川と浅野川に挟まれた金沢港まで約2kmの臨海部に位置する。かつては沼が広がり、小川が網目状に流れるような低湿地の中の微高地というような立地環境であったと考えられる。周辺には、南新保 A、B、E、ゴマヂマチ遺跡のほか、弥生時代の大集落である西念・南新保遺跡等が所在する。過去には、南新保 C 遺跡は平成8、9年度に県埋蔵文化財センターにより、南新保 D 遺跡は昭和49年に県教育委員会、昭和54、56、62年、平成元年に市教育委員会により、三枚田遺跡は昭和56、57年に市教育委員会により調査されている。

〈南新保 C 遺跡の調査成果〉

南新保 C 遺跡は、調査区を1～4区とし、調査を行った。弥生時代中期から古墳時代中期の遺構としては、方形周溝墓、円墳、竪穴式建物、平地式建物、溝、川、土坑などが検出された。

方形周溝墓は、1区で6基見つかっており、周溝が全周するものと四隅が切れるものがみられた。弥生時代中期から終末期の遺物が出土するものがある一方で、調査区の東側の方形周溝墓からは古墳時代前期の遺物が出土しており、古墳時代にも継続して造られていることがわかった。また、1区の南東側で、円墳の周溝を検出した。墳丘の径は約17m、周溝の幅は約1.5m～約5mで、周溝からは古墳時代中期の高壙等が出土しており、この円墳の時期を示していると思われる。土器の他、勾玉、管玉、ガラス玉、ナツメ玉等、装飾品類が出土した。墳丘部分や主体部は、後世に削られ残っていない。平地式建物の周溝は1区、2区、3区それぞれ2棟分ずつ、計6棟分が検出された。弥生時代中期～古墳時代中期の土器が出土し、中には東海・近江系の壺もみられた。竪穴式建物は、3区で3棟検出された。弥生時代後期～終末期の土器の他、緑色凝灰岩の原石、管玉の未製品が出土しており、弥生時代の玉造りの工房であった可能性が考えられる。また、竪穴式建物付近に位置する土坑からは、弥生時代終末期～古墳時代初め頃の完形の甕が2点重なった状態で出土した。

1区北西側の川跡からは、弥生時代中期～古墳時代中期の土器、木製品、石器、骨などが良好な遺存状態で出土した。特に木製品では、曲柄又鍬、曲柄平鍬、鋤未製品、一木梯子、木針など、当時の生活の様子を知ることができる道具類がある。

平安時代の遺構としては、掘立柱建物や井戸、溝、川、土坑などが検出された。1区南西側の川からは「大市」、「中」、「川辺」、「泉」、「下居カ」、「寺」などの墨書き土器が出土しており、絵画が描かれているようなもの、転用硯、漆パレットも出土している。木製品では斎串が出土した。1区北東側の川からは、「敷波」の墨書き土器のほか、木簡、人形、鉄製品等も出土している。1区北西側の川の東側では縦板を隅柱と横桟で止めた隅柱横桟留めの井戸がみつかっており、須恵器や土師器が出土した。

〈弥生時代から古墳時代への移行〉（遺跡全体図 北側・南側）

平成8、9年度に実施された県センター調査の成果（石川県教育委員会ほか 2002）に合わせ、南新保C遺跡の弥生時代から古墳時代への移行について検討する。居住域と墓域は隣接して展開しながらも、全時期を通して北西側は居住域、南東側は墓域という認識があったようだ。

【第1段階】

弥生時代中期後半～後期後半の建物は居住域全域に建てられ、方形周溝墓は県センター調査2号方形周溝墓を除いて、墓域北側に集中している。

【第2段階】

弥生時代後期後半～終末期も、建物は居住域全域に建てられるが、方形周溝墓は墓域南側に集中している。

【第3段階】

古墳時代前期前半には、建物は居住域北側に建てられる。これまでの方形周溝墓や前方後方墳は、他の方形周溝墓の一部を利用するなど、墳丘を破壊しないように場所を確保している。2号墳（12号方がその一部となる前方後方墳か（栃木 2004））と方形周溝墓④はそれぞれ弥生時代の方形周溝墓を破壊して築造している。破壊されているのは主に第1段階の方形周溝墓であり、古墳時代前期に入ると外観的にも目につくものではなく、忘れ去られてしまったのではないだろうか。

【第4段階】

古墳時代中期前半になると、墓域の北側に円墳が築造された。そのすぐ北に同時期の平地式建物が建てられる。円墳は第1段階の方形周溝墓を1基破壊してつくられているため、墳墓として認識されていなかった可能性がある。

南新保C遺跡では、古墳築造という新しい墓制を取り入れ始めても、方形周溝墓という従来の墓制を継続していた。また、四隅が切れるタイプから全周するタイプへと変化したわけではなく、両者は平行して造られている。

南新保C遺跡の南に位置する西念・南新保遺跡では、弥生時代中期後葉から後期後半にかけて居住域と墓域は環濠や溝などで区切られていた。南新保C遺跡ではそのように区切ることはなく、居住域に隣接して墓域が展開しており、古墳を造る際にも前段階の方形周溝墓を破壊することを避けて築造している。このように弥生時代のあり方を残しつつ古墳時代へと移行する様子は、「方形周溝墓を造っていた集団の中から古墳を築く人間が出現した」（石川県教育委員会ほか 2002）と考えができるかもしれない。また、平安時代の遺構からは、墨書き土器や斎串、人形などが出土しており、荘園や役所などの要所であった可能性を示している。南新保C遺跡は人々にとって重要な拠点であったようだ。

〈参考文献〉

石川県教育委員会、（財）石川県埋蔵文化財センター 2002 『金沢市 南新保C遺跡』

栃木英道 2004 「第二章 第二節 二葬送とマツリ」『金沢市史』通史編1 原始・古代・中世 金沢市 124頁



1区 方形周溝墓



1区 円墳 土師器出土状況



遺跡全体図 北側



県センター調査区
(石川県教育委員会ほか 2002 Fig.22 を編集)

- | | |
|--|------------------|
| ■ | 第1段階:弥生中期後半～後期後半 |
| ■ | 第2段階:弥生後期後半～終末期 |
| ■ | 第3段階:古墳時代前期 |
| ■ | 第4段階:古墳時代中期前半 |
| ■ | 弥生時代中期～古墳時代中期 |
| ■ | 平安時代 |
| ■ | 時期不明 |

遺跡全体図 南側



1区 弥生～古墳の川 一木梯子出土場状況



1区 北西側平安時代川 墨書き土器出土状況



1区 平安時代の井戸



1区 弥生～古墳の川 作業風景



2区 弥生時代の平地式建物土状況



3区 土坑 土器出土状況



3区 弥生時代の竪穴式建物



3区 竪穴式建物 管玉未成品出土状況

7. 南新保 D 遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 県: 142300 市: 146Y・H)

所 在 地: 金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 35' 46''$

東経 $136^{\circ} 38' 9''$

調査面積: 969m²

種 別: 集落跡

主な時代: 弥生、古墳、奈良、平安

担 当: 向井 裕知、鏡 百恵



■ 遺跡の概要

本遺跡は南新保C遺跡同様、金沢市南新保土地区画整理事業に伴い発掘調査を行った（20頁参照）。

今年度の調査区は、遺跡とされている範囲の最北にあたる。過去には、今年度調査区より南側、国道8号線付近において、県教育委員会により第1次（昭和49年）、市教育委員会により第2次（昭和54年）、第3次（昭和56年）、第4次（昭和62年）、第5次（平成元年）調査が行われている。遺構検出面は耕作面下約20cmと浅く、検出した遺構は近世以降の新しい溝が大半である。暗渠と思われる細い溝が南北方向で何本もみられた他、東側では自然流路と思われる最大幅約7mの大きな溝を確認した。

中世以前の遺構としては、溝やピットなどが検出されたが、遺構密度は低い。それも、遺構の上面は大きく削平を受けたようで、底の部分のみが残存しているような状態である。調査区の西側で検出された溝は、2条並行して延びており、溝の上面からは弥生時代終末期から古墳時代前期の土器がまとまって出土している。これらの溝は、幅約1mで、深さは約20cmと浅く、断面形は緩やかなU字形を呈している。覆土は主に黒褐色シルトであり、水の流れを示す砂層はみられなかった。出土した土器は細かな破片が多く、溝への廃棄であったかと考えられる。

今年度調査区の南側、第2次調査区、第3次調査区では、複数の溝が並走し、ところどころで切り合う状況が確認された。溝はシルト層、砂層が堆積しており、中には今回と同時期の土器がまとまって出土している溝もある。溝が浅くなり機能しなくなれば、すぐ横で再び溝を掘るという様子がみてとれることから、水量調節用の水路や排水路と考えられている。この溝群は居住域の東端に位置し、その東側には水田が広がるのではないかと予測されている。

今回検出した溝は南側の溝群とつながるかと思ったが、溝は2条のみで切り合いは持たず、砂層を含まないなど、様相は大きく異なる。しかしながら、溝の周辺では砂層を含むくぼみがだらだらと広がっており、遺跡全体が大きく削平されていることも鑑みると、溝群の底が残っている状態であるとも考えられる。この溝の性格については今後の整理作業で検討していきたい。



SD01 土器出土状況



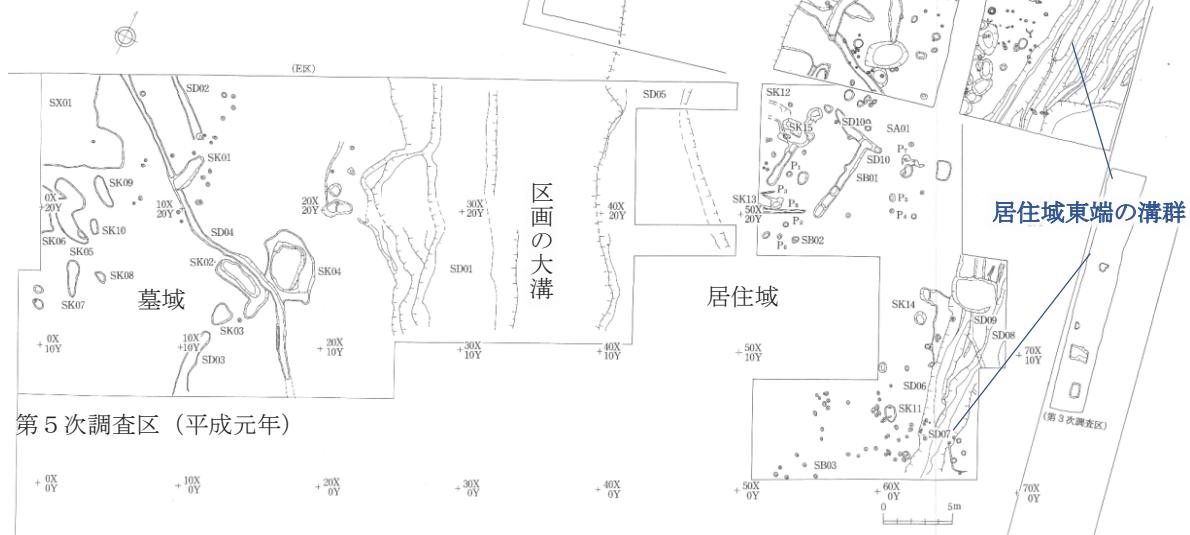
SD02 土器出土状況



航空写真



調査歴 位置図



第2次調査（昭和54年）、第5次調査（平成元年）平面図
(金沢市教育委員会 1995『金沢市南新保D遺跡II』第64図を編集)

8. 南新保三枚田遺跡【南新保遺跡群】

(遺跡番号 県：142200 市：148)

所 在 地：金沢市南新保町地内

北緯 $36^{\circ} 59' 46''$

東経 $136^{\circ} 63' 32''$

調査面積：1,312m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古墳

担 当：向井 裕知、鏡 百恵



■ 遺跡の概要

本遺跡は南新保C遺跡同様、金沢市南新保土地区画整理事業に伴い発掘調査を行った（20頁参照）。

本遺跡は、道路改良工事に伴い昭和56・57年（1981・82）に金沢市教育委員会により発掘調査が実施されている。今年度の調査区は、昭和57年に実施された第2次調査区を東西に挟むように隣接しており、同調査で確認された弥生時代から古墳時代の遺構や遺物が確認された。

現道（昭和57年調査箇所）から東側の調査区はほとんどが大きな流路であった。流路の底付近からは弥生時代後期から古墳時代前期の土器が多く出土しており、木製品も見つかった。流路以外では、大型土坑やピットなどが検出された。また、近世以降の耕作に伴う水路等が目立ち、それ以前の遺構がわかりにくい状況でもあった。



大型流路跡 土器出土状況



大型流路跡



調査状況



大型流路跡・溝跡

9. 打木町東B遺跡

(遺跡番号 新発見のためなし)

所 在 地：金沢市打木町東地内

北緯 $36^{\circ} 33' 45''$

東経 $136^{\circ} 34' 13''$

調査面積：5,000m²

種 別：集落跡

主な時代：縄文、弥生、奈良、平安、江戸

担 当：谷口 明伸



■ 遺跡の概要

本遺跡は金沢市打木町東地内に所在する縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、金沢市企業立地課が施工する第5次安原異業種工業団地区画整理事業に先立ち令和2年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施した。調査地は手取川が形成した扇状地の端部、標高4～5mの水田地帯に位置しており、区画整理事業地17.4haのうち打木町東B遺跡の分布範囲5,000m²を調査対象とした。なお、発掘調査は同事業施工区域内に立地する打木町東C遺跡（30頁参照）と同時に実施している。

調査地の基本層序は現地表から0.4～0.6m下が耕作土及び田床土で、その直下に淡黄褐色シルトの地山が展開して遺構面となる。遺構密度は非常に薄く、大規模な河川跡や近世以降の農業用水跡にはほぼ限定され、近世より前時代の土坑や小穴跡はほとんど確認されていない。遺物包含層の残存もごく一部に限られる。遺物は河川跡・用水跡及び遺物包含層からの出土が主体であるがその数は少ない。

発掘調査では河川跡を含む溝状遺構（SD）7条と土坑（SK）2基を検出した。溝状遺構SD01は調査区北西で検出、東西方向に走り、幅約8.8m、深さ約0.5mを測る。縄文～弥生時代の土器片や打製石斧が出土するがその数は多くない。覆土にはクルミやトチノミなどの堅果類のほか、植物遺体や流木などが大量に含まれる。調査区西部を南北に走るSD02は幅約4.7m、深さ約0.9mを測り、近世陶磁器や銭貨などが出土する。近世の自然流路もしくは大規模用水跡と考えられる。SD03は調査区西部を弧状に走る河川跡で、幅約11.2m、深さ約1.3mを測る。弥生土器・石器・木製品が定量出土し、底面には流木が残留する。SD07は調査区北東を北西～南東方向に走り、幅約9.8m、深さ約0.7mを測る。覆土には堅果類や植物遺体が大量に含まれ底面には流木が残留するが、遺物の出土は認められなかった。規模や覆土の状況からSD03に連続する河川跡と考えられる。土坑2基はいずれも近代のもので、おがくずが厚く堆積し、下駄などの木製品が大量に投棄されている。遺物包含層は調査区中央から東側にかけて限定的に確認されており、出土遺物は縄文時代後期～晩期のものが主体である。包含層下から遺構は確認されず、自然地形の凹部に何らかの理由で遺物が堆積したものと考えたい。

本遺跡からは縄文時代から近世までの遺物が出土するがその数は多くなく、遺構の検出も規模の大きいものに限られる。これは、過去の生活面が近代以降の耕地整理等により大規模な削平を受けた結果、深度のある遺構のみ残存した状況を示すものと考えられ、周囲にはかつて複数時代の遺跡が存在していた可能性を示唆するものと見られるが、その判断は今後の遺物整理の進展を待つこととしたい。



打木町東B遺跡 全体写真



SD03



SD03出土木製容器



SD02



SD07

10. 打木町東 C 遺跡

(遺跡番号 新発見のためなし)

所 在 地：金沢市打木町東地内

北緯 $36^{\circ} 33' 45''$

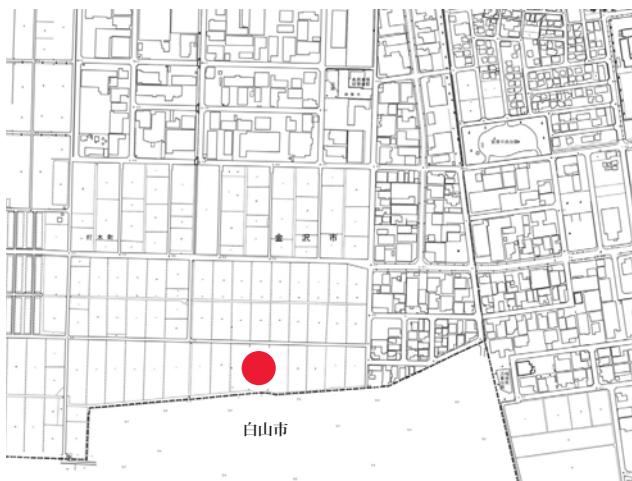
東経 $136^{\circ} 34' 13''$

調査面積：3,700m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、奈良、平安、鎌倉、室町、江戸

担 当：谷口 明伸



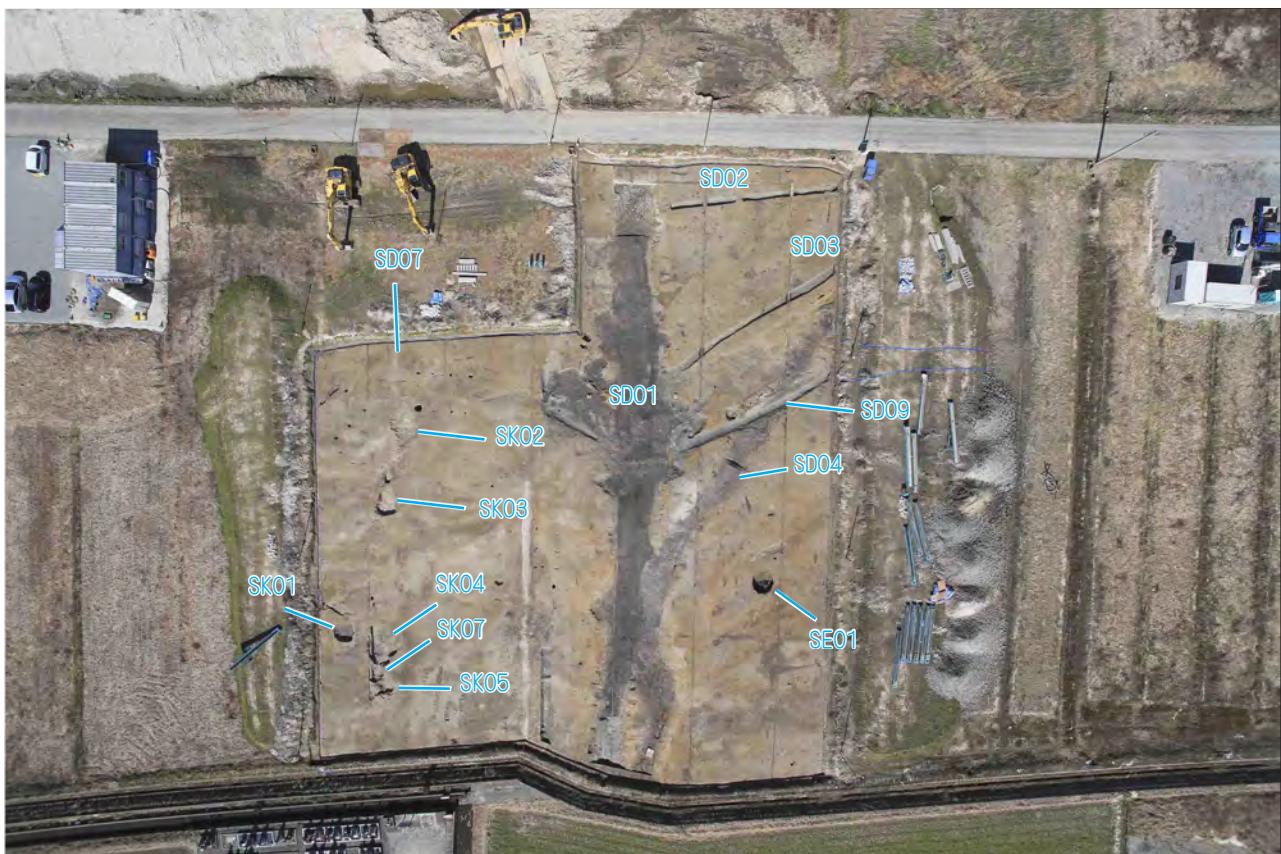
■ 遺跡の概要

本遺跡は金沢市打木町東地内に所在する弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。調査地は手取川が形成した扇状地の端部、標高4～5mの水田地帯に位置しており、第5次安原異業種工業団地区画整理事業地17.4haのうち打木町東C遺跡の分布範囲3,700m²を調査対象とした。なお、発掘調査は同事業施工区域内に立地する打木町B遺跡（28頁参照）と同時に実施している。

調査地の基本層序は現地表から0.4～0.6m下が耕作土及び田床土で、その直下に淡黄褐色シルトの地山が展開して遺構面となる。遺物包含層は確認されていない。遺構面からは弥生から近世の遺構が検出されるが密度は比較的薄く、調査区の西側に弥生～平安の遺構が、東側に近世以降の遺構が分布する傾向にある。また、調査区全般で小穴が複数確認できるが、ほぼ全てが近現代の搅乱である。

発掘調査では溝状遺構（SD）11条、土坑（SK）10基、井戸跡（SE）1基を検出した。溝状遺構SD01は調査区中央やや東寄りを南北に走る近世の流路である。調査区の北寄りで東西方向への分岐があり、その近辺には杭や立板などで水流を調整した痕跡も確認できることから、当該時期の農業用水跡であると考えられる。SD02は調査区の北端で検出した幅0.7m、深さ0.5m、断面形が箱形の溝跡で、中世の土師器皿などが出土地している。SD04はSD01に東接して蛇行する幅2.2m、深さ0.2mの溝跡で、出土遺物が皆無であったため正確な時期は判然としないが、SD01に切られているため近世以前の遺構である可能性がある。SD07は調査区西側で検出、南北方向に走り、幅約0.8m、深さ約0.1mを測り、比較的まとまった量の弥生土器が出土地している。土坑は大小10基を検出しているが、SK04が平安時代、SK08が近世の遺構であって、それ以外は弥生～古墳時代のものである。SK04は長軸3.6m・短軸3.0mの平面橢円形の土坑で、覆土の上層から「庄所下」の墨書がある須恵器無台壇が出土地している。「庄所」は荘園管理施設、いわゆる荘家の別名であって、近隣に荘園に関する施設の存在が推測されるが、本遺跡からはこれ以外に荘園に関連する遺構・遺物は確認されなかった。井戸跡SE01は径約2.6mの円形で深さ約1.4mまで掘削したが底面は確認されていない。井戸枠を持たない素掘りの井戸と見られ、息抜き用の竹筒のほか、18世紀末の磁器碗などが出土している。

本遺跡からは弥生時代から近世までの遺物が出土するがその数は多くなく、遺構の検出も限定的である。西に隣接する打木町東B遺跡と様相をほぼ同じくしており、やはり近代以降の大規模削平の影響が大きいといえよう。その中でSK04から出土した「庄所下」墨書土器は8世紀後半代の所産であり、記載内容及び遺物の時期から初期荘園関連遺物とみられようが、本遺跡の遺構・遺物の検出状況はかなり限られるものであることから慎重な判断が求められよう。



打木町東C遺跡 全体写真



S D 0 1 • 0 4



S D 0 7



S K 0 4 • 0 5 • 0 7



S K 0 5 出土「庄所下」墨書き器

11. 千田西遺跡

(遺跡番号 県: 160700 市: 607)

所 在 地：金沢市千田町地内

北緯 $36^{\circ} 36' 43''$

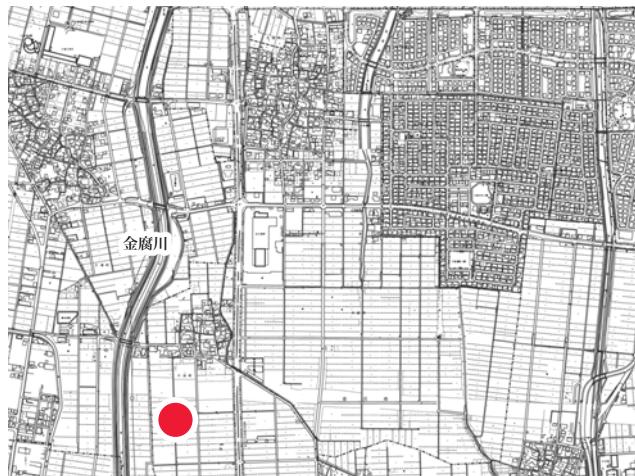
東経 $136^{\circ} 39' 27''$

調査面積：320m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生

担 当：庄田 知充



■ 遺跡の概要

千田西遺跡は、市道小坂 25 号千田町線 10 号道路新築工事に伴い発掘調査を実施した遺跡である。金沢市北部の沖積平野に所在する千田西遺跡は、下流では天井川となる浅野川・金腐川流域で、干拓前の河北潟にも程近い位置に立地している。千田町は芹田郷遺称地とされており、推定大治年間(1126 年～31 年)の書状や、「千田郷」として暦応 4 年(1341 年)の書状にみえる。時衆過去帳にも「加賀千田」が結縁者として見え、16 世紀代の文書では、千田姓の有力な地侍層が存在することが知られる。近隣に加賀一向一揆の中核を担った木越光徳寺の跡地が所在し、隣接する木越には、16 世紀に入ってから、木越光琳寺、木越光専寺が寺地を構え、後に木越三光と称された。

計画道路形状通り L 字形を呈する調査区のうち、平成 30 年度は南端の東西道路区間、令和元年度は南北道路南側 80m 区間、本年度は令和元年度調査区北側に隣接する 40m 区間を発掘した。

本年度調査区では、調査区全体に暗灰色を呈する河川堆積層が広く分布しており、堆積層上において土坑 5 基(SK301～303・305・307)、溝 2 条(SD306・306)、大形の不明遺構 1 基(SX304)が検出され、河川堆積層および各遺構から弥生時代終末期の土器が多量に出土した。



調査区完掘全景（南から）



溝 (SD306)



溝 (SD306) 弥生土器出土状況



河川跡 (SD308)



河川跡 (SD308) 出土弥生土器 (カメ・ツボ)



土坑 (SK301・SK302)



土坑 (SK303)



土坑 (SK305)



土坑 (SK307)



大形の不明遺構 (SX304)



包含層出土弥生土器 (高坏)

12. 矢木ヒガシウラ遺跡

(遺跡番号 県：122300 市：208J)

所 在 地：金沢市矢木2丁目地内

北緯 $36^{\circ} 33' 27''$

東経 $136^{\circ} 35' 37''$

調査面積：106m²

種 別：集落跡

主な時代：鎌倉

担 当：楠 正勝



■ 遺跡の概要

矢木ヒガシウラ遺跡は、金沢市矢木2丁目68番2において、民間業者が施工する宅地造成工事に先立つ試掘調査によって遺構の存在を確認した。試掘調査は令和元年10月10日に、1049.79m²を対象に試掘確認調査を実施した。試掘調査の結果を受けて協議したところ、宅地造成工事に伴い拡幅される道路部分、約106m²について発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査期間は、令和2年11月11日～同年11月27日。調査の結果、発見した遺構には、A区では計3基の土坑、7基の小穴、1条の溝などが、B区では1基の土坑、2基の小穴、2条の溝などがある。他にA区・B区にまたがり水田状凹地を2カ所検出した。遺物は両調査区合わせて容量36ℓの箱に1箱分出土した。現地の標高はA区・B区の境界に隣接する道路高で7.048m。遺構面の高さはA区で6.3m、B区で5.7mを測り、東から西に向かって標高は下がっていた。

各遺構の説明文中の名称の略称は土坑（SK）、小穴（P）、溝（SD）、水田状凹地（ST）とする。

SK01はA区南端で発見した。平面形は隅丸方形をしており、一辺2.4m、深さ40cm（確認）の土坑で、陶磁器が出土した。SK02はSK01に隣接して発見した。平面形は隅丸方形をしており、一辺1.8m、深さ50cmの土坑で、土師器・陶磁器や木製品などの遺物が大量に出土したためゴミ穴と考えられる。SK03はA区北端で発見した。平面形は円形状をしており、直径1.6m、深さ50cm（確認）の土坑で、陶磁器・瓦などが出土した。SK04はB区の西側で肩部の一部が発見した。平面形は円形状をしており、検出した直径が2.3m、深さ70cmの土坑。ここから遺物は出土していない。

SD01はA区中央部で発見した。幅1.2m、深さ60cm（確認）の南北方向に直線状に走る溝で、遺物は出土していない。SD02はB区中央部で発見した。幅0.3m、深さ40cmの直線上に走る溝で、遺物は出土していない。SD03はA区南端で検出した。幅1.2m、深さ60cm（確認）の北西から南東方向に直線状に走る溝で、遺物は出土していない。

小穴（P）についてはA区中央部、B区東端で確認したが、柱穴かどうかは不明である。

水田状凹地（ST）は、B区東端でST02を発見した。幅は4.3m、深さ30cmを測る。珠洲焼の摺鉢（鎌倉時代）が出土。A区・B区の境界付近でST01を発見した。幅は2.5m（確認）、深さ20cmを測る。遺物は出土していない。この二つの水田状凹地の間には幅60cmの土堤（畦畔か）がある。

遺物には、珠洲焼の摺鉢、陶磁器類があり、そのほかに灯明皿（土師器、14～15世紀頃）が出土し、木製品も多く出土（桶や下駄など）している。これまでの調査では弥生時代（矢木ジフリ遺跡）から古墳時代（矢木ヒガシウラ）の遺跡が確認されたが、今回の調査では中世の遺跡があることわかった。



作業風景A区（北から南を望む）



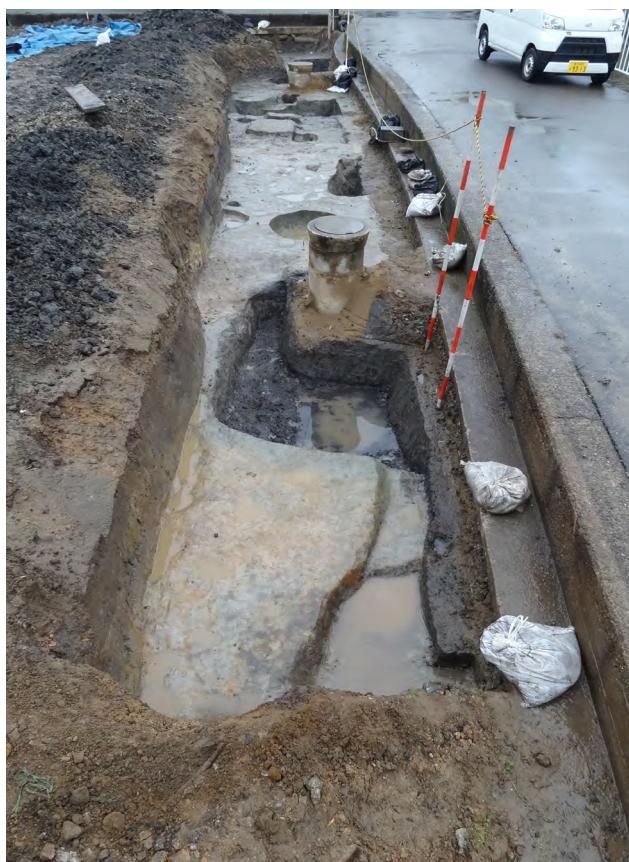
作業風景B区（東から西を望む）



A区土坑検出状況 SK 01（東から）



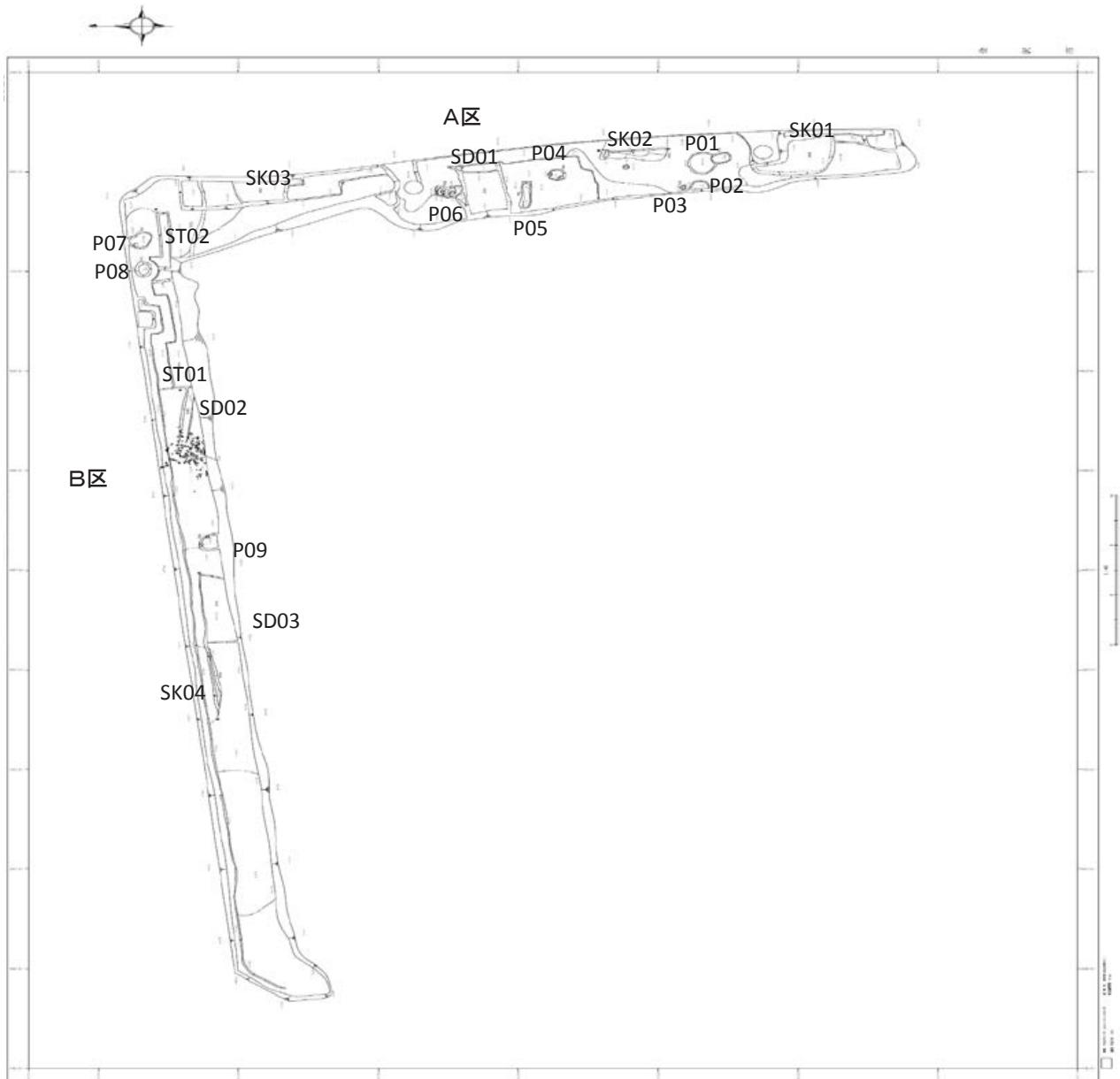
A区土坑検出状況 SK 02（南から）



A区全体写真（南から）



B区全体写真 手前：水田状凹地（東から）



遺構全体図

13. 専光寺養魚場遺跡

(遺跡番号 県: 1092 市: 120K・N・H)

所 在 地: 金沢市専光寺町地内

北緯 $36^{\circ} 34' 50''$

東経 $136^{\circ} 35' 14''$

調査面積: 684m²

種 別: 集落跡

主な時代: 弥生

担 当: 須貝 杏奈



■ 遺跡の概要

専光寺養魚場遺跡は、民間の宅地造成工事に先立つ試掘調査で発見された遺跡である。遺跡の約1.5km西には砂丘地帯が広がり、この砂丘の後背湿地に面して遺跡が営まれていたと考えられる。また、当該地域は手取川によって形成された扇状地の扇端部にあたり、豊富な自噴水がみられた地帯となっている。

造成工事と並行して発掘調査を進めていくために、調査区をA区・B区、C区に分けた。

A区は現地表（標高2.3m付近）から約0.2m下までに水田の覆土があり、その直下の地山付近で遺構が検出された。小穴や土坑のほかに区画溝と考えられる縦横に走る溝（SD34・SD44）などが検出された。また、直径約2mの半円形の溝（SD31・SD32）は何らかの建物跡の可能性が考えられるが、細長い調査区内という制限もあり具体的な把握には至っていない。

B区は現地表から約0.2m下までに水田の覆土があり、その下に0.3m前後の厚さで遺構面が展開していた。土坑や溝に加えて、調査区内側を囲うように円形に廻る周溝をもつ建物跡を検出した。建物の周溝は外径約15.5m、内径約10m、幅約2.5m、深さ約0.25mを測り、2条重なっている場所も確認されたことから、掘り直しをしたことが推測される。周溝からは大量の土器が出土し、中には鳥の形を模した鳥形土製品と呼ばれる遺物も見つかっている。また、周溝の中心点付近には柱の痕跡と考えられる多数の小穴が検出されている。

C区は現地表（標高2.1m付近）から約0.2m下までに水田の覆土があり、その直下の地山付近で遺構が検出されている。土坑・小穴のほかに調査区を南北に横切る溝（SD17・SD18）や東西に横切る溝（SD08・SD17）が検出された。遺構密度は低いが、土坑（SK01）からはまとまった遺物が出土している。

主な遺物としては弥生時代中期の甕や高壙などがあり、当時の金沢の歴史を示す貴重な資料が得られたといえる。特にB区で出土した鳥形土製品は石川県内では現在のところ小松市八日市地方遺跡でしか確認されていないため、重要な発見となる。

今回調査地の南西側隣地では平成3年と平成18年に発掘調査をしているが、その際にも弥生時代中期の土坑や溝を確認しており、これまで見つかっていた当該期の集落の範囲がさらに東側に伸びていることが判明した。



A 区全景（西から）



A 区土坑検出状況（北から）



B 区全景（北から）



B 区土坑検出状況（東から）



B 区溝検出状況（西から）



B 区出土鳥形土器（南から）



C 区全景（東から）



C 区遺構出土弥生土器（西から）

14. 金沢城下町遺跡(石引4丁目10番地点)

(遺跡番号 新発見のためなし)

所 在 地：金沢市石引4丁目地内

北緯 $36^{\circ} 33' 14''$

東経 $136^{\circ} 35' 02''$

調査面積：50 × 2面

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：庄田 知充



■ 遺跡の概要

金沢城下町遺跡(石引4丁目10番地点)では、個人住宅の建設に伴い一部国庫補助を得て発掘調査を実施した。調査地は、金沢市中心部の金沢城や兼六園から近く、国立工芸館や石川県立歴史博物館等に隣接する閑静な住宅街となっている。藩政期には城下町の南東部にあたり、前田家直臣の中堅クラスの武家屋敷が立ち並ぶ地域だった。発掘調査は分布調査で確認された埋蔵文化財包蔵地のうち、計画建物の範囲で実施された。

発掘調査では複数の土坑が確認されたが、とくに調査区北西壁面付近で一部を確認した推定直径約1.8m、深さ約1.1m土坑(SK05)からは18世紀前半代を下限とする多数の陶磁器や土器等の遺物が出土しており、廃棄土坑(ごみ穴)であると考えられる。土坑上層では礎石を据えるための根石と考えられる集石直径約0.5～0.6mの柱穴と考えられる小穴も多数見つかった。調査範囲は武家屋敷内の道路に近接した位置に当たるため、建物が繰り返し建てられていたものと考えられる。調査区やや南寄りでは、北東-南西方向の溝(SD01)が見つかった。検出された他の遺構も方位軸は同様に、周辺道路とおなじ北東-南西方向を指向している。



調査地全景写真（南から）



土坑 (SK05)



土坑 (SK05) 遺物出土状況



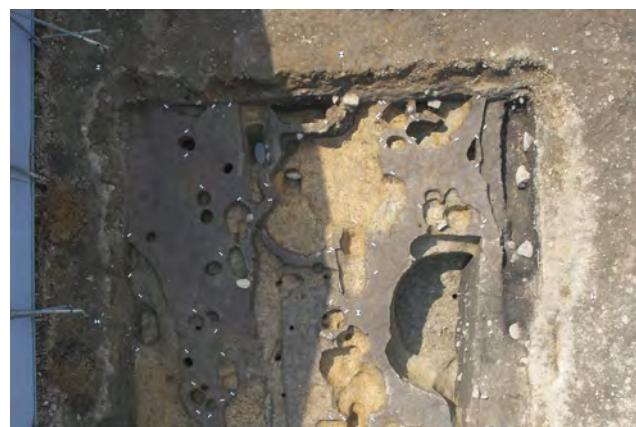
礎石根石 (SP03・SP33・SP34)



柱穴 (SP27・SP01・SP28)



土坑 (SK03・SK04・SK10)



土坑 (SK07)・溝 (SD01・SD02)



調査地俯瞰写真 (上が北西)

15. 加賀藩主前田家墓所

所在 地：金沢市野田町野田山地内

北緯 $36^{\circ} 31' 42''$

東経 $136^{\circ} 39' 58''$

調査面積：10m²

種 別：大名家墓所

主な時代：寛永 11 年 (1634 年)

担 当：谷口 明伸



■ 史跡の概要

加賀藩主前田家墓所は、江戸時代に加賀・能登・越中三ヵ国を領有した藩主家の墓所である（以下、「墓所」という。）。金沢市の南東部、倉ヶ岳を主峰とする富樫山地の北東端に位置する野田山丘陵の北東斜面中腹に占地し、藩主居城である金沢城からは直線距離にして南に約 3.5km に位置する。墓所内には歴代藩主を中心に、藩主正室、生母、子女ら計 84 基の墳墓が造営されている。

藩主墓は土を方形に 3 段重ねた特徴的な形状（方形 3 段築造）をしており、藩祖前田利家墓で一辺が約 19m、以降の藩主墓では一辺約 16m を測る。藩政期初期の墳墓には墳丘の前面に造り出し状の祭壇部を設け、その上に石廟・石塔を安置したが、3 代利常以降の藩主墓は祭壇部及び石廟・石塔が廃止される。また、藩政期においては仏式葬であったが、藩主家が明治 7 年に神式葬へと転換したため、現在は墳墓の正面に鳥居が建てられ、前出の石廟・石塔も同時に撤去された。ただし、他家に嫁いだ子女らの墳墓にはそれらが現存するものがある。

墓所の始まりは利家の実兄利久を天正 15 年 (1587) に葬ったことと伝えられるが、歴代藩主墓所としての嚆矢は慶長 4 年 (1599) に死去した利家の墳墓造営となる。その際、利家は遺言により自らその墳墓の地を野田山に指定したといい、以降、4 代光高・9 代重靖を除く歴代藩主は方形 3 段築造という特異な墳墓形式をもってこの地に埋葬された。個々の墳墓の大きさ、墓所全体の面積ともに全国でも最大級の規模であり、加賀百万石の大名家墓所として堂々たる威容を誇る。

墓所は織豊期から現代に至るまでの墓所の変遷をたどることができ、その規模の大きさと独特的の墳墓形態も含め、日本を代表する大名家墓所の一つとして極めて高い文化財的価値を有していることから、平成 21 年 2 月 12 日に国の史跡に指定された。指定面積は 86,294.35m² である。

金沢市では、平成 20 年度の国史跡指定を受け、翌 21 年度に保存管理計画を、同 22 年度に整備基本計画を策定した。これに基づき同 23 年度から史跡の本格整備に着手している。

■ 豪墓の概要

豪は利家の 4 女で寛永 11 年 (1634) 没。生母は利家の正室まつ。墳墓は標高 159 ~ 161m の緩斜面に立地し、平面形は方形の 2 段築造。豪墓は菩提寺である大蓮寺が継続して管理を行ってきたため、前田家による神式葬への転換の影響を受けず、墳丘前面に寛永 11 年造営の五輪塔が現存する。五輪塔は墳丘前面に設けた造り出し状の祭壇部の上に安置される。墳墓の周囲には 1 辺約 35m のほぼ正方形の堀が廻る。

五輪塔は越前笏谷石（凝灰岩）製で塔高は 309cm を測る。火輪の軒口が厚く、軒端を切り取り、風輪・空輪が大きいという、典型的な近世の五輪塔の様相を見せる。空輪から地輪の正面にそれぞれ「祖」「師」

「西」「来」「意」と刻書し、地輪には豪の没年月日と法名を刻銘する。

■保存修復の経緯と経過

豪墓五輪塔は史跡内に唯一現存する五輪塔であり貴重な構成要素の一つであるが、造立後約400年を経過し石材の劣化・風化が顕著に認められるため、解体修理による保存対策が必要であると判断され、令和元年度より金沢市が保存修復事業に着手している。

令和元年度は解体前調査として五輪塔を含む墓域全体の現況測量調査及び五輪塔の破損状況調査を行って現状を把握し、翌2年度に解体調査を実施した。五輪塔解体にあたっては、解体時のさらなる破損を防止するため全体をビニールフィルム及びサラシで巻いた後、ウレタンフォームで養生して一石ずつユニックで懸架して取り外した。解体した石材は令和3年度に強化材含浸による保存処理、翌4年度に破断部の接合などの強化処理を実施し、同5年度以降に現地での復元を予定している。これに伴い、令和2年度に五輪塔の基礎構造把握を目的とした発掘調査を実施した。

■発掘調査の概要

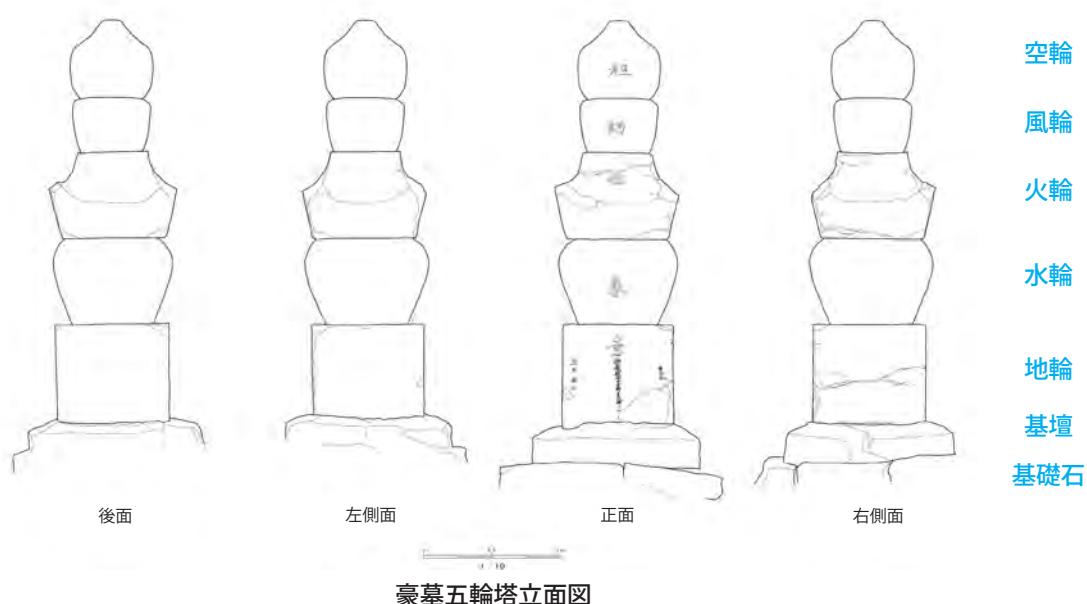
令和2年度の発掘調査は解体した五輪塔の基礎部分を中心に調査区を設定し、遺構検出を行った。調査ではおおまかに以下の層序が検出された。

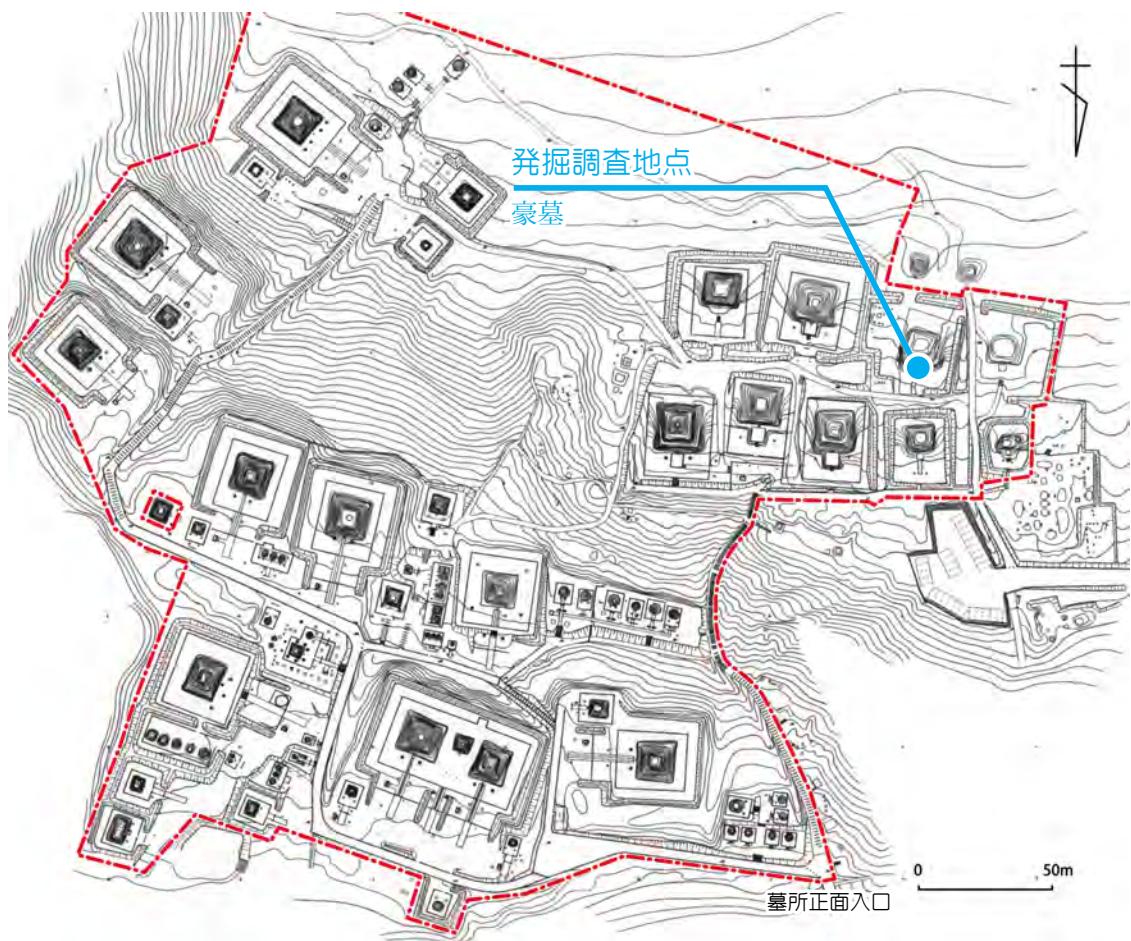
【上から】①茶褐色粘質土《表土》

- ②黄褐色粘質土（大礫多く含み堅く締まる）《基壇ベース土》
- ③黒褐色粘質土（小礫含む）《盛土1》
- ④明褐色粘質土（黒褐色粘質土含む）《盛土2》

土層③と④は祭壇部本体を形成する盛土と考えられ、その上に五輪塔の基壇を据えるためのベース土となる土層②が乗る。土層②は五輪塔基壇+0.6m前後の平面範囲があり、径20cm前後の礫が充填されて堅く締まる。この土層②の範囲のほぼ中央に五輪塔が据えられていて、五輪塔の自重による沈下・傾斜等を防ぐための措置であると考えられる。類例として、豪墓に隣接する村井千世墓石廟（寛永14年(1637)造営）の保存修復時に実施した発掘調査において礫を方形に並べた基礎石列が検出された事例があり、加賀藩主前田家墓所において石造物の基礎構造を考古学的に把握した例はこれに続く2例目となる。

なお、令和3年度には祭壇部の構造把握を目的とした発掘調査を予定している。これら発掘調査の成果は令和5年度以降の豪墓五輪塔復元整備に反映させたい。





前田家墓所 位置図



豪墓 五輪塔解体前状況



五輪塔解体後状況



完掘状況（正面から）



完掘状況（右側面方向から）

2. 埋蔵文化財分布調査事業

(1) 令和2年度埋蔵文化財分布調査事業の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、金沢市遺跡地図に基づき図面調査及び現地での踏査・試掘調査を実施し、開発事業着手前に埋蔵文化財の有無を確認している。

令和2年度は金沢市施工の公共事業11件、民間の開発事業・農地転用等121件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。

なお、平成23年度より、開発事業に伴う試掘確認調査については国庫及び県費補助事業にて実施しており、令和2年度の事業費は4,082千円であった。

このほか、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事に伴うもので、文化財保護法第93条及び第94条に基づく発掘調査、慎重工事または工事立会での対応となったものは62件で、別表のとおりであった。

公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場所	事業名	担当課	回答日	面積	調査方法	結果	対応
1	金石東1丁目 13-1 (金石中学校)	雨水貯留施設整備	内水整備課	4月16日	450m ²	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡に近接)
2	観音堂町ヲ・口、寺中町口	河川改修	内水整備課	6月16日	6,000m ²	試掘	無	支障なし
3	大浦町ハ・ニ・ル・ヲ、 東蚊爪町ぬ	河川改修	内水整備課	7月10日	77000m ² の 一部	試掘	有	R3以降、試掘調査継続
4	野町3丁目11-1 (旧野町小学校)	防火水槽設置	營繕課	7月17日	27.49m ²	試掘	無	支障なし
5	芳賀2丁目3-8 (旧芳賀町小学校)	学校建替え	教育総務課	7月29日・ 8月26日・ 10月19日	5,700m ²	試掘	有	R3発掘調査 (芳賀2丁目遺跡)
6	弥勒町イ10-7、 10-26 (JR森本駅に付随)	駐車場造成	交通政策課	8月6日	1,000m ²	試掘	無	支障なし
7	長町1丁目10-35 (中央小学校)	校舎エレベーター棟 増築	教育総務課	10月19日	44.m ²	試掘	無	支障なし (村井氏屋敷跡)
8	高畠1丁目262 (高畠第二児童公園)	四阿改築	緑と花の課	10月28日	2,078m ²	工事立会	無	支障なし
9	観音町1丁目 34-2 (観音町通り)	無電柱化に伴う ハンドホール設置	道路建設課	12月14日	26.5m ²	工事立会	無	支障なし
10	丸の内町85 (大手堀散策路)	植栽植替え	緑と花の課	1月7日・ 2月2日		工事立会	無	支障なし
11	清川町104-5 (新桜坂緑地)	地表照明取替え	景観政策課	3月17日		工事立会	無	支障なし

民間の開発行為に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
1	西市瀬町・菅池町 外	森林作業道開設	4月3日		踏査	無	支障なし (瀬領遺跡)
2	大手町422	事前調査	4月6日	706m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
3	桂町ニ43-1・44-1・45・46	宅地造成	4月7日	1,478.83m ²	試掘	無	支障なし (桂遺跡)
4	旭町1丁目387~389・394~396	住宅建設	4月7日	1,564m ²	試掘	無	支障なし
5	田中町ろ61の一部、62	住宅建設	4月9日	622.48m ²	試掘	無	支障なし (田中C遺跡)
6	黒田1丁目185-1	住宅建設	4月13日	166.07m ²	試掘	無	支障なし (黒田町遺跡)
7	野田町チ186	寺院建設	4月13日	1,540.66m ²	試掘	有	工事立会 (野田桃雲寺遺跡)
8	涌波1丁目272	宅地造成・住宅建設	4月16日	362m ²	試掘	無	支障なし
9	小坂町北223-1 外3筆	福祉施設建設	4月22日	1,715m ²	試掘	有	工事立会 (小坂北遺跡)
10	押野3丁目579・585	宅地造成	4月28日	610m ²	試掘	有	慎重工事 (押野西遺跡)
11	笠舞1丁目225	住宅建設	4月28日	152.06m ²	試掘	無	支障なし (笠舞A遺跡)
12	塙崎町ニ96-4	住宅建設	5月1日	204m ²	試掘	有	工事立会 (塙崎タカキ遺跡)
13	小橋町181-1	幼保連携型認定 こども園の建設	5月1日	1,281.23m ²	試掘	無	支障なし
14	黒田2丁目237	住宅建設	5月11日	276.12m ²	試掘	無	未定 (黒田町遺跡)
15	米泉8丁目138-1	店舗建設	5月18日	2,847.34m ²	試掘	無	支障なし
16	馬替1丁目70	住宅建設	5月19日	231.5m ²	試掘	無	支障なし (扇台遺跡)
17	畠田西3丁目183	住宅建設	5月19日	152.71m ²	試掘	無	支障なし (畠田大徳川遺跡)
18	武藏町623	住宅建設	5月25日	121.3m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
19	塙崎町ニ74	住宅建設	5月27日	151m ²	試掘	有	工事立会 (塙崎タカキ遺跡)
20	小将町153の一部	倉庫建設	5月27日	69.59m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
21	古府1丁目101の一部・102	店舗建設	5月28日	2,059.98m ²	試掘	無	支障なし
22	笠舞2丁目343	住宅建設	6月1日	132.8m ²	試掘	有	慎重工事 (笠舞B遺跡)
23	みどり1丁目261-2・ 261-3 外2筆	宅地造成	6月2日	990.9m ²	試掘	無	支障なし (上安原緑団地遺跡)
24	四十万3丁目389	宅地造成	6月9日	554.2m ²	試掘	無	支障なし (三十苅遺跡)
25	四十万3丁目388	宅地造成	6月9日	276.57m ²	試掘	無	支障なし (三十苅遺跡)
26	藤江北1丁目30	駐車場建設	6月10日	86m ²	試掘	有	未定 (藤江B遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
27	藤江北1丁目31	駐車場建設	6月10日	129m ²	試掘	有	未定 (藤江B遺跡)
28	尾張町1丁目6-15	事務所建替え	6月10日	511m ²	試掘	無	支障なし 金沢城下町遺跡)
29	高畠2丁目158-3	住宅建設	6月11日	132.53m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
30	進和町32-3・32-4	事務所建替え	6月12日	3,308.01m ²	試掘	無	支障なし
31	高尾3丁目67-2	住宅建設	6月15日	238.37m ²	試掘	有	工事立会 (高尾新町遺跡)
32	笠舞3丁目385・386 外9筆	宅地造成	6月17日	1,804.56m ²	試掘	無	支障なし
33	下近江町14-1・15-1 の一部 外	事務所兼作業場建設	6月22日	353.8m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
34	高尾台1丁目355	宅地、駐車場造成	6月30日	707m ²	試掘	無	支障なし (高尾新マトバ遺跡)
35	田中町に42-1の一部	携帯電話基地局新設	7月8日	1m ²	立会	無	支障なし (田中A遺跡)
36	小将町139-2、140-2	簡易宿泊所建設	7月13日	259.69m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
37	古府町南931	住宅建設	7月14日	141.27m ²	試掘	無	支障なし (黒田町遺跡)
38	長坂2丁目1403	宅地造成	7月14日	725m ²	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
39	下新町6-12	住宅建設	7月16日	457m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
40	古府2丁目154・156	宅地造成	7月16日	694m ²	試掘	有	工事立会 (古府B遺跡)
41	東力1丁目98	宅地造成	7月17日	1,094.46m ²	試掘	無	支障なし
42	浅野本町二152-1・ 153-1・154-1	工場増築	7月21日	2,371.86m ²	試掘	無	支障なし
43	元菊町218-1・218-5 の一部	住宅建設	8月3日	114.88m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
44	専光寺町ヲ1-1	整地工事	8月4日	252m ²	試掘	有	工事立会 (専光寺養魚場遺跡)
45	長坂2丁目1231	宅地造成	8月11日	262m ²	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
46	彦三町1丁目391	住宅建設	8月12日	55.78m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
47	元菊町218-2・218-5 の一部	住宅建設	8月17日	115.47m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
48	高岡町306・307	住宅建設	8月18日	143.74m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
49	兼六元町103	住宅建設	8月25日	110.74m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
50	泉野町6丁目173	住宅建設	8月27日	286m ²	試掘	無	支障なし (泉野遺跡)
51	諸江町中丁508-1・ 509-1	事務所建設	8月31日	1,454m ²	試掘	無	支障なし
52	元菊町91	住宅建設	9月1日	106.47m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
53	八日市3丁目513	宅地造成	9月4日	283m ²	試掘	無	支障なし (八日市B遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
54	畠田中2丁目162-1	不動産調査	9月4日	384m ²	試掘	無	支障なし
55	泉野町5丁目120	住宅建設	9月7日	284.03m ²	試掘	無	支障なし (泉野遺跡)
56	橋場町71-5	店舗建設	9月11日	39.69m ²	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
57	彦三町1丁目237	住宅建設	9月16日	168.9m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
58	寺中町ホ74-6	畠に転用	9月16日	167.72m ²	試掘	無	支障なし (畠田・寺中遺跡)
59	八日市5丁目451~454	店舗建設	9月17日	1,509m ²	試掘	無	支障なし (八日市ヤスマル遺跡)
60	八日市出町578	店舗建設	9月18日	420m ²	試掘	無	支障なし (八日市サカイマツ遺跡)
61	示野中町1丁目19~21・ 25~28	店舗建設	9月25日	3,151.09m ²	試掘	無	支障なし
62	黒田2丁目186~188	土地調査	9月28日	1,050m ²	試掘	無	支障なし (黒田B遺跡)
63	大額1丁目423~426	資材置き場	9月28日	1,077m ²	試掘	有	未定 (新発見の遺跡)
64	北塚町東60・61	こども園建設	9月30日	204.59m ²	試掘	無	支障なし (北塚A遺跡)
65	神野2丁目17	宅地造成	9月30日	472m ²	試掘	無	支障なし (南塚遺跡)
66	畠田西2丁目59	住宅建設	10月2日	149.36m ²	試掘	無	支障なし (畠田大徳川遺跡)
67	兼六元町431・432	住宅建設	10月8日	108.97m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
68	専光寺町ホ22-1・ 23~26他23筆および金沢 市所管の法定外公共物の一部	工場建設	10月14日	15,873.2m ²	試掘	有	R2・3発掘調査 (専光寺養魚場遺跡)
69	寺地1丁目328	住宅建設	10月16日	182.4m ²	試掘	無	支障なし (有松A遺跡)
70	諸江町下丁111-1	宅地分譲	10月22日	1,154.91m ²	試掘	無	支障なし
71	進和町63-2・64~66	店舗増築	10月24日	1,770.26m ²	試掘	無	支障なし
72	寺地1丁目455・462 他1筆	住宅建設	10月26日	231.82m ²	試掘	無	支障なし (有松A遺跡)
73	南森本町ル126・127・ 129・131-1~ 135-1	宅地造成	10月27日	4,481m ²	試掘	有	未定 (南森本遺跡)
74	石引4丁目332	住宅建設	10月29日・ 12月24日	525.37m ²	試掘	有	R2発掘調査 (金沢城下町遺跡)
75	三口新町3丁目740・741	住宅建設	10月29日	272.97m ²	試掘	無	支障なし (三口新町遺跡)
76	観法寺町ろ82~84、 85-1他6筆	資材置き場	10月30日	2,985m ²	試掘	有	未定 (新発見の遺跡)
77	矢木2丁目187	宅地造成	11月2日	118.13m ²	試掘	無	支障なし (矢木マツノキダ遺跡)
78	金石本町口の6	タンク埋設	11月5日	2,898.23m ²	試掘	有	R3発掘調査 (金石本町遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
79	笠舞1丁目161-1	住宅建設	11月5日	145.16m ²	試掘	無	支障なし (笠舞A遺跡)
80	山科2丁目268~270	資材置き場	11月6日	1,013m ²	試掘	無	支障なし
81	彦三町2丁目281・284	売買	11月6日	65.25m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
82	玉鉢3丁目20	住宅建設	11月11日	325m ²	試掘	無	支障なし (玉鉢B遺跡)
83	藤江南3丁目75-1・75-2 他4筆	店舗建設	11月16日	3,730.88m ²	試掘	無	支障なし
84	長坂2丁目7-43	住宅建設	11月17日	216.05m ²	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
85	間明町2丁目139~141	宅地造成	11月20日	1,320m ²	試掘	無	支障なし
86	寺地2丁目46~48	住宅建設	11月24日	856m ²	試掘	無	支障なし (有松C遺跡)
87	元菊町328-24	不動産売買、住宅建設	11月24日	88.17m ²	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
88	高畠2丁目186-1	駐車場用地	11月25日	605m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
89	末町16字12-1・14-1 の一部	店舗建設	11月25日	1,577.26m ²	試掘	無	支障なし
90	西泉1丁目80-1・81-1 他2筆	宅地造成	12月2日	2,292m ²	試掘	無	支障なし
91	百坂町口113	住宅建設	12月3日	235.24m ²	試掘	無	支障なし (百坂B遺跡)
92	石引4丁目350	カーポート設置	12月7日	316.8m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
93	西町3番丁23-5	住宅建設	12月7日	44.08m ²	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
94	浅川町ハ45 外	資材置き場	12月8日	1,360m ²	試掘	無	支障なし (未窯跡群辰巳支群)
95	古府町南520	住宅建設	12月17日	121.6m ²	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
96	東力4丁目45	店舗建設	12月18日	5,335.96m ²	試掘	無	支障なし
97	法光寺町129-2	町会集会所建設	12月23日	479m ²	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
98	高岡町407	共同住宅建設	12月24日	142.1m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
99	金石東1丁目5-17	住宅建設	1月5日	132.9m ²	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡)
100	堅田町甲79-1・79-2・ 80-1 外13筆および金沢 市所管の法定外公共物の一部	店舗建設	1月20日	4,702.95m ²	試掘	無	支障なし
101	古府2丁目74・75	事務所建設	1月22日	4,814.26m ²	試掘	無	支障なし
102	高畠2丁目162-3	住宅建設	1月25日	99.18m ²	試掘	無	支障なし (高畠遺跡)
103	広坂1丁目77・78-2・ 80	店舗建設	1月26日	213.87m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
104	兼六元町370-1	住宅建設	2月5日	256.85m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)

ID	場所	行為の内容	回答日	面積	調査方法	結果	対応
105	長坂2丁目1304-1	住宅建設	2月5日	348.27m ²	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
106	本町2丁目114~116・ 117-1	共同住宅建設	2月8日	1,461.46m ²	試掘	無	支障なし
107	兼六元町394	住宅建設	2月12日	130.83m ²	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
108	古府町南459の一部	事務所、倉庫建設	2月17日	4,400m ²	試掘	無	支障なし
109	三口新町3丁目611	店舗建設	2月19日	3,165.63m ²	試掘	無	支障なし
110	河原市町口7-1	宅地造成、住宅建設	2月26日	620m ²	試掘	無	支障なし
111	旭町3丁目558~560・ 567の一部	住宅建設	2月26日	1,296.71m ²	試掘	無	支障なし
112	武藏町243	共同住宅建設	3月4日	63.71m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
113	千木町43~52外8筆 および金沢市所管の法定外公共 物の一部	宅地分譲	3月5日	4,627.35m ²	試掘	無	支障なし
114	三社町128	住宅建設	3月8日	115.7m ²	試掘	有	未定 (三社町遺跡)
115	大手町186~188	共同住宅建設	3月8日	2,895.36m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
116	兼六元町5-1・5-2	長屋住宅建設	3月15日	46.81m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
117	城南2丁目778-5・778-6・ 779・825・金沢市所管の法定 外公共物の一部	宅地分譲	3月22日	1,356.39m ²	試掘	無	支障なし
118	兼六元町259・260外3筆	住宅建設	3月25日	210.66m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
119	辰巳町ハ、末町21字・22字	野球場造成	3月26日	43,680.m ²	試掘	無	支障なし
120	彦三町1丁目635	倉庫新築	3月29日	116.34m ²	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
121	大額1丁目421・422・ 427~430	駐車場造成	3月29日	1,549m ²	試掘	有	未定 (新発見の遺跡)

(別表) 土木工事のための発掘届・発掘通知一覧

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
1	93条(届)	中屋町南79	個人住宅建設	4月13日	4月13日	184m ²	中屋東遺跡	慎重工事
2	94条(通知)	尾山町321-1	園路盛土、植栽、玉垣復旧工事	4月23日	4月23日	21,212m ²	金沢城跡	慎重工事
3	93条(届)	野田町チ186の一部外3筆	寺院建替	4月24日	4月24日	2,540.61m ²	野田桃雲寺遺跡	工事立会
4	93条(届)	南森本町ヌ97-6	個人住宅建設	4月30日	4月30日	160.9m ²	南森本ホリハタ遺跡	工事立会
5	93条(届)	直江町ホ220-1・220-2	個人住宅建設	5月15日	5月15日	331.62m ²	直江ニシヤ遺跡	工事立会
6	93条(届)	塚崎町ニ96-4	個人住宅建設	5月19日	5月19日	203.26m ²	塚崎タカキ遺跡	工事立会
7	93条(届)	尾山町321-1	照明器具設置	5月22日	5月22日	50.m ²	金沢城跡	工事立会
8	93条(届)	戸板1丁目130-1	個人住宅建設	5月29日	5月29日	66.38m ²	薬師堂遺跡	慎重工事
9	93条(届)	笠舞2丁目343	個人住宅建設	6月3日	6月3日	132.8m ²	笠舞B遺跡	慎重工事
10	93条(届)	小将町153の一部	倉庫建設	6月4日	6月4日	69.59m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
11	93条(届)	南森本町ヌ97-4	分譲住宅建設	6月8日	6月8日	176.38m ²	南森本ホリハタ遺跡	工事立会
12	93条(届)	戸板1丁目128-1	分譲住宅建設	6月15日	6月15日	60.33m ²	薬師堂遺跡	工事立会
13	93条(届)	橋場町2-15	分譲マンション建設	6月15日	6月15日	2,212.46m ²	金沢城下町遺跡	発掘調査
14	93条(届)	笠舞1丁目253-10	分譲住宅建設	6月17日	6月17日	149.54m ²	笠舞A遺跡	慎重工事
15	93条(届)	高尾3丁目67-2	個人住宅建設	6月18日	6月18日	238.37m ²	高尾新町遺跡	工事立会
16	93条(届)	観法寺町イ32-1・33-1	宅地造成	6月18日	6月18日	720m ²	観法寺遺跡	発掘調査・工事立会
17	93条(届)	小坂町北223-1・225~227	こども園新築	6月22日	6月22日	1,711.59m ²	小坂北遺跡	工事立会
18	93条(届)	伏見台3丁目154-1	分譲住宅建設	6月24日	6月24日	140.96m ²	寺地向田遺跡	工事立会
19	93条(届)	伏見台3丁目154-2	分譲住宅建設	6月24日	6月25日	140.34m ²	寺地向田遺跡	工事立会
20	93条(届)	南新保町チ16-1 他7筆・ヌ1~3他3筆	土地区画整理	6月24日	6月24日	10,815m ²	南新保C遺跡	発掘調査
21	93条(届)	南新保町ヘ45~47	土地区画整理	6月24日	6月24日	1,985m ²	南新保D遺跡	発掘調査
22	93条(届)	南新保町ト109-1 他2筆・チ44-1	土地区画整理	6月24日	6月24日	3,250m ²	南新保三枚田遺跡	発掘調査
23	93条(届)	石引4丁目132~134・135-3	事務所増築	7月9日	7月9日	286.42m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
24	93条(届)	下近江町14-1・15-1・43-1の一部	事務所兼作業場新築	7月10日	7月10日	353.8m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
25	93条(届)	尾山町321-1	照明器具設置	7月14日	7月14日	20m ²	金沢城跡	工事立会

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
26	94条(通知)	田中町ハ・松寺町酉	公園再整備(駐車場および調整池)	7月17日	7月17日	5,000m ²	田中A遺跡	工事立会
27	93条(届)	直江西1丁目9	共同住宅建設	8月11日	8月11日	397.97m ²	直江北遺跡	工事立会
28	93条(届)	専光寺町ヲ1-1	宅地造成	8月11日	8月11日	252m ²	専光寺養魚場遺跡	工事立会
29	93条(届)	彦三町1丁目391	個人住宅建設	8月14日	8月14日	55.78m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
30	94条(通知)	打木町東1176~1181・1500~1615および金沢市所管の法定外公共物の一部	第5次安原異業種工業団地造成	8月17日	8月17日	171,525.34m ² (31と合算)	打木町東B遺跡	発掘調査
31	94条(通知)	打木町東1176~1181・1500~1615および金沢市所管の法定外公共物の一部	第5次安原異業種工業団地造成	8月17日	8月17日	171,525.34m ² (30と合算)	打木町東C遺跡	発掘調査
32	93条(届)	高岡町306・307	個人住宅建設	8月21日	8月21日	143.74m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
33	93条(届)	兼六元町103	個人住宅建設	8月31日	8月31日	114.93m ²	金沢城下町遺跡	工事立会
34	93条(届)	直江南2丁目63	車庫建設	9月8日	9月8日	288.05m ²	直江北遺跡	工事立会
35	93条(届)	矢木2丁目68-2	分譲宅地造成および擁壁工事	9月11日	9月11日	699.86m ²	矢木ヒガシウラ遺跡	発掘調査
36	93条(届)	伏見台3丁目131-2	擁壁の設置	9月14日	9月14日	144.26m ²	寺地向田遺跡	工事立会
37	93条(届)	塙崎町ニ74	個人住宅建設	9月24日	9月24日	149.48m ²	塙崎タカキ遺跡	工事立会
38	93条(届)	南森本町口76-1・77-1・78-1	こども園新築	10月1日	10月1日	2,116.94m ²	大場遺跡	工事立会
39	93条(届)	伏見台3丁目131-2	個人住宅建設	10月12日	10月12日	144.26m ²	寺地向田遺跡	工事立会
40	93条(届)	主計町2-5	店舗基礎改修	10月15日	10月15日	34.41m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
41	93条(届)	南森本町ヌ97-3	個人住宅建設	10月19日	10月19日	150.01m ²	南森本ホリハタ遺跡	工事立会
42	94条(通知)	橋場町2-15	元市指定保存樹移植工事	10月20日	10月20日	1,500m ²	金沢城下町遺跡	工事立会
43	93条(届)	南森本町ヌ97-5	個人住宅建設	10月22日	10月22日	162.1m ²	南森本ホリハタ遺跡	工事立会
44	93条(届)	兼六元町431・432	個人住宅建設	10月22日	10月22日	108.97m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
45	93条(届)	戸板5丁目27・28・33・34	店舗建設	10月23日	10月23日	722m ²	桜田・示野中遺跡	工事立会
46	93条(届)	橋場町71-5	店舗建設	11月5日	11月5日	39.69m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事
47	93条(届)	金石本町口6	地下油槽等新設	11月18日	11月18日	2,898.23m ²	金石本町遺跡	発掘調査
48	93条(届)	押野3丁目579の一部	個人住宅建設	12月3日	12月3日	153m ²	押野西遺跡	慎重工事
49	93条(届)	下近江町14-1・15-1・43-1の一部	倉庫新築	12月21日	12月21日	353.8m ²	金沢城下町遺跡	慎重工事

ID	届・通知の別	場所	行為の内容	届出日	取扱通知日	面積	遺跡名	対応
50	93条 (届)	古府2丁目154-4	個人住宅建設	12月21日	12月21日	133.46m ²	古府B遺跡	慎重工事
51	93条 (届)	戸板5丁目142・143	長屋住宅建設	12月28日	12月28日	244.88m ²	出雲じいさまだ遺跡	工事立会
52	93条 (届)	観法寺町い29-12	個人住宅建設	2月2日	2月2日	171.97m ²	観法寺遺跡	工事立会
53	93条 (届)	石引4丁目332	個人住宅建設	2月2日	2月2日	525.36m ²	金沢城下町遺跡	発掘調査
54	93条 (届)	兼六元町401	駐車場設置	2月8日	2月8日	424.81m ²	金沢城下町遺跡	工事立会
55	93条 (届)	専光寺町赤22-1・ 23~26	工場移転のための宅地造成	2月12日	2月12日	15,747.63m ²	専光寺養魚場遺跡	発掘調査
56	93条 (届)	安江町302	電気設備 引込み等工事	2月18日	2月18日	26m ²	金沢城下町遺跡	発掘調査
57	93条 (届)	近岡町133-5・6	個人住宅建設	2月22日	2月22日	545.53m ²	大友E遺跡	工事立会
58	93条 (届)	兼六元町370-1	個人住宅建設	3月5日	3月5日	256.85m ²	金沢城下町遺跡	工事立会
59	93条 (届)	古府2丁目154-3	分譲住宅建設	3月10日	3月10日	133.49m ²	古府B遺跡	工事立会
60	93条 (届)	兼六元町394	個人住宅建設	3月15日	3月15日	130.83m ²	金沢城下町遺跡	工事立会
61	93条 (届)	古府2丁目154-2	分譲住宅建設	3月17日	3月17日	133.49m ²	古府B遺跡	工事立会
62	93条 (届)	伏見台3丁目131-1	個人住宅建設	3月17日	3月17日	144.24m ²	寺地向田遺跡	工事立会

3. 教育・普及・啓発活動事業

(1) 金沢縄文ワールド

■概要

金沢市いなほ1丁目に所在する中屋サワ遺跡は、縄文時代晩期を主体とした多量かつ多様な土器や漆塗製品を含む木製品、石製品などが出土した遺跡である。特に漆塗製品は遺存状態が良好なものが多く、編みカゴを漆で塗り固めた籃胎漆器、漆塗りの装飾弓、腕輪、堅櫛など、多彩な遺物が出土しており、当時の漆工技術の実態がよく示されている。縄文土器には北陸地方の縄文時代晩期の形式をよく示すだけでなく他地域の影響が見られるものも含まれている。これらは北陸地方における縄文時代晩期の文化と生活様式を良く示しているとして、平成26年8月21日に重要文化財に指定された。

チカモリ遺跡は金沢市新保本5丁目に所在し、昭和50年代の発掘調査で環状木柱列と呼ばれる半截したクリ材を円形に立て並べた建造物が確認されたほか、計349点にも及ぶ木柱根が出土している。遺跡は中心部がチカモリ遺跡公園として整備され、昭和62年2月23日に国史跡に指定されたほか、出土した木柱根のうち57点が石川県指定文化財に指定されている。

金沢市では、これら縄文時代晩期の貴重な資料を適切に保管するとともに広く一般に展示・公開する施設として、金沢市埋蔵文化財センター内に「金沢縄文ワールド」を設置した。館内には常設展示コーナーと企画展示コーナーを設け、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」を主体に様々な視点から金沢市内の縄文時代を紹介する展示を行っているほか、2階には勾玉作りや縄文かご作りなどの各種古代体験に挑戦できる縄文体験コーナーを併設している。また、重要文化財指定物件を保管する特別収蔵庫を併設し、貴重な考古資料の保存継承を図っている。

所在地 石川県金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内

開館時間 9時30分から17時00分まで（入館は16時30分まで）

休館日 月曜日、年末年始（12/29～1/3）

※月曜日が祝日の場合は開館し、その次の平日に休館

入館料 無料

入館者数 平成30年度 3,803人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

令和元年度 3,810人（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和2年度 2,148人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）



金沢縄文ワールド
平面図

■ 常設展示

金沢縄文ワールドにおいて重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」及び国史跡「チカモリ遺跡」出土品を常設展示するにあたり、貴重な考古資料を適切に保存管理しつつ、その魅力を広く公開するという基本理念のもと、以下のコンセプトによる展示を行っている。

1. 中屋サワ遺跡やチカモリ遺跡の出土品の特色及び独自性を演出する展示
2. 若年層から高齢者まで、幅広いニーズに対応できる演出
3. 「触れて、楽しみ、学ぶ」ことができる体験型展示手法の採用
4. 各種分析や実験考古学など最新の研究成果を反映した展示

これにメンテナンス性や環境への配慮を加えた結果、常設展示では「巨木の文化」「漆と装飾」の2大テーマに基づいた展示・解説を企画したほか、タッチパネルを操作して金沢市内の縄文遺跡や発掘調査の流れなどが検索できる「縄文の考古楽」コーナー、ゲームを通して縄文時代の石斧や弓の使い方を体験できる「実験考古学」コーナーを併設した。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年4月11日から5月6日まで全館休館とし、再開館後も体験型の展示は中止としている。

・巨木の文化

展示室中央にシンボル展示としてチカモリ遺跡の環状木柱列を室内復元し、大型スクリーンの映像とともに往時の環境を再現している。また、中屋サワ遺跡から出土した豊富な木製品を展示し、縄文時代晩期の優れた木工技術を紹介している。



シンボル展示



常設展示「巨木の文化」

・漆と装飾

中屋サワ遺跡から出土した漆塗木製品や縄文土器を展示し、その高い技術と独自のデザイン性を通して、縄文時代晩期の金沢に住んだ人々が持っていたワザと美意識を紹介している。特に漆塗木製品は籠胎漆器や木胎漆器、弓、櫛、腕輪など多岐に渡る第一級の資料を展示しており、当該時期の金沢における優れた漆芸文化の一端を垣間見ることができる。



「縄文の考古学」コーナー



常設展示「漆と装飾」

■企画展示

企画展示コーナーでは、常設展示とは別に、毎回異なるテーマに基づいた展示を行い、金沢を中心とした北陸地方の遺跡と出土遺物を紹介している。令和2年度は計4回の企画展を開催した。

・企画展「学校の下の遺跡」

会期 令和2年7月7日～令和2年9月13日

概要 夏休みにかかる期間中であることから、子どもを対象とした企画展を開催した。金沢市内で発掘した遺跡のうち、小学校や中学校の敷地を発掘調査した遺跡について紹介した。その中で、今回は兼六小学校のグラウンド下に昔は何があったのかを遺構や遺物の説明をとおして解説した。

展示資料 味噌蔵小学校の歴史：

地図や絵図のパネルで味噌蔵小学校の歴史や変遷を紹介

古墳時代の遺跡：

平地式建物の解説や周溝の写真パネル、高杯、はそう等

江戸時代前半の遺跡：

鍋島焼の皿破片、出土した舟材のパネル等

江戸時代後半の遺跡：

肥前や九谷や瀬戸等の陶磁器、土人形等



企画展チラシ

・企画展「富山と金沢の縄文集落」

会期 令和2年9月15日～令和2年12月13日

概要 縄文時代中期は今からおよそ5,500年前から4,500年前で、縄文時代の中でも縄文土器の造形が発達し一番輝いた時代と言える。この時期の新潟県と金沢の縄文土器を比較

し、同じ日本海側での共通点や相違点、文化的交流などに焦点をあてた企画展を開催した。

対象となる富山県の遺跡は東黒牧上野遺跡で、旧大山町、現在は富山市の熊野川左岸の広大な河岸段丘上に位置する。縄文時代中期の集落がみつかり、大型住居を含む29棟の住居跡が確認された。

同時代の金沢の遺跡として笠舞A遺跡の集落の立地や構造を比較し、出土した遺物を比較展示し、類似点や相違点などを紹介した。

展示資料 東黒牧上野遺跡の土器

深鉢、台、浅鉢、有孔鍔付土器、吊手土器、
土偶、三角壇形土製品、石器

笠舞A遺跡の土器

深鉢、台付鉢、浅鉢、有孔鍔付土器、
吊手土器、土偶、三角・四角壇形土製品、
双口土器、磨製石斧形土製品、石器

・企画展「千田北遺跡の信仰世界」

会期 令和2年12月15日～令和3年3月14日

概要 千田北遺跡は金沢市北部の沖積平野に所在し、浅野川・金腐川・河北潟にほど近い立地である。弥生時代～中世までの集落遺跡であるが、特に平安時代末～鎌倉時代にかけての遺構から見つかった信仰関連の遺物について紹介した。堀跡からみつかった木製笠塔婆の額面には梵字が彫られ、黒漆を塗布し上から金箔を貼ってある。また、池状遺構からみつかった国内初出土の僧形神立像等を展示した。

展示資料 木製笠塔婆、僧形神立像、卒塔婆、こけら経

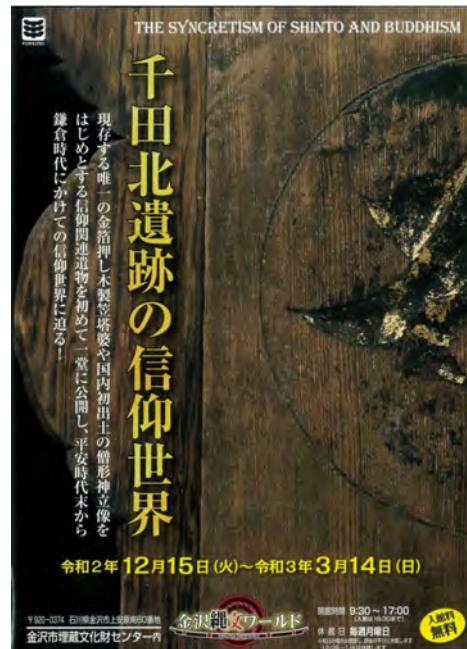
・企画展「石川中央都市圏考古資料展－古墳時代編－」

会期 令和3年3月20日～令和3年6月13日

概要 金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町の4市2町で構成される石川中央都市圏には、日本海に面した海岸線や靈峰白山を始めとする山麓、手取川や河北潟に代表される河川湖沼などの豊かな自然を背景として、縄文時代から近世まで、数多くの遺跡が立地している。本企画展は石川中央都市圏が連携して開催する3回目の考古資料展で、各市町を代表する古墳時代の遺跡から出土した優品を厳選して公開した。



企画展チラシ



企画展チラシ



展示資料 金沢市

神谷内古墳群：土師器、鉄刀等金属製品、
管玉、ガラス玉、珠文鏡、
連弧文鏡

畠田・寺中遺跡：琴柱形石製品等

下安原遺跡：珠文鏡

白山市

浜竹松B遺跡：刳り抜き円盤等石製品・腕輪

田地古墳：須恵器

かほく市

中沼C遺跡：須恵器、土師器、鉄製曲刃鎌、
管玉、白玉

野々市市

御経塚シンデン古墳群：土師器

上林新庄遺跡（上林古墳）：須恵器

上新庄チャンバチ遺跡

津幡町

北中条遺跡：須恵器、子持勾玉、珠文鏡

能瀬石山古墳：鉄刀

内灘町

大根布砂丘遺跡：須恵器、勾玉、耳環、管玉、ガラス玉、白玉



■ 縄文体験コーナー

金沢縄文ワールドの開設に併せ、金沢市埋蔵文化財センターの2階に「縄文体験コーナー」を併設し、様々な縄文体験を無料で実施している。同コーナーの体験メニューはいつでも体験できる通年メニューと、毎月内容が変わる期間限定メニューの2種類がある。いずれも縄文時代の文化や生業を追体験できる内容となっており、当館の体験型展示コンセプトの一翼を担っている。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、期間限定メニューは中止し、通年メニューの一部のみの開催とした。

通年メニュー 土器パズル（中止） 勾玉作り 古代衣装試着（中止） 拓本作り
ペーパークラフト ぬりえ

期間限定メニュー 縄文かご・コースター作り 土偶作り 土笛作り くみひも作り
(中止) うでわ作り はたおり

※期間限定メニューの開催時期はホームページ等でご確認いただきたい。

※ペーパークラフトは金沢縄文ワールドのホームページでダウンロードできる。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/bunkazaimain/maizou/15.html>

利用実績 平成30年度 2,322人（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

令和元年度 2,393人（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和2年度 1,111人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）



縄文体験コーナー



しおり作り



勾玉作り



ペーパークラフト

■ 金沢縄文ワールド見学バス助成制度

金沢縄文ワールドでは、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」等の展示を通して本市の縄文遺跡の魅力を紹介している。また、併設する縄文体験コーナーでは、勾玉作りなど様々な縄文文化を無料で体験することができる。当館では、金沢縄文ワールドを始めとした本市及び近郊の縄文遺跡の見学・体験を希望する小学校や関連団体に対し、往復のバス使用料を助成する制度を実施しており、歴史学習や校外活動に活用されている。見学コースは下記の4コースを設定しており、申込団体が希望するコースを選択できる。見学バス助成は予算上10団体程度を募集しているが、助成に依らない団体見学は随時受け入れている。今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小して実施した。

① 展示見学コース　－金沢縄文ワールドの展示と館内の見学－

行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、館内設備見学）

所要時間 約40分

② 縄文文化体験コース　－金沢縄文ワールド展示見学と縄文体験－

行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、縄文体験（勾玉作り等））

所要時間 約90分

③ 縄文文化探訪コース　－金沢縄文ワールド展示見学と近郊の縄文遺跡めぐり－

行 程 金沢縄文ワールド、御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約120分

④ 古代の里探訪コース　－金沢縄文ワールド展示見学とふるさとの国史跡めぐり－

行 程 金沢縄文ワールド、上荒屋史跡公園、東大寺領横江荘遺跡荘家跡、

御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約120分

利用実績 平成30年度 6団体 312人

令和元年度 7団体 408人

令和2年度 2団体 82人



金沢縄文ワールド見学バス



勾玉作り体験の様子

(2) 金沢こども歴史探検隊

当センターでは平成 15 年度より、将来を担う子どもたちを対象に、市内の史跡・建造物など実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢こども歴史探検隊」を実施している。この活動は、ふるさとの歴史をより深く理解してもらうことで、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護っていく「金沢型の文化財保存活動」の実現をめざす環境を醸成することを目的としている。

今回は、第 20 回目として「チャレンジ！遺跡体験発掘」と題し、南新保遺跡群での体験発掘を実施した。

南新保遺跡群は区画整理事業に伴い令和 2 年度から金沢市が発掘調査を実施しており、本年度は事業地内の南新保 C 遺跡、南新保 D 遺跡、南新保三枚田遺跡の 3 遺跡において発掘調査が行われている。体験発掘の会場となった南新保 C 遺跡は弥生時代から平安時代までの複合遺跡で、特に弥生～古墳時代の遺構と遺物に良好なものが含まれる（20 - 24 頁参照）。

体験発掘には親子 37 名の参加があり、発掘調査担当者が南新保遺跡群の概要と出土遺物を解説した後、屋外での発掘調査を体験した。調査は古墳時代の円墳の周溝を中心に約 2 時間実施し、途中降雨による中断を挟んだものの、遺構からは当該期の土師器や管玉などの遺物が多数出土した。参加者の感想は概ね好評であり、埋蔵文化財への理解と親しみを深めるという当初の目的をほぼ達成する結果となった。今後も同様のイベントを継続して実施し、金沢の豊富な歴史文化遺産を次世代へと守り伝える環境の醸成に努めていきたい。

第 20 回 金沢こども歴史探検隊「チャレンジ！遺跡体験発掘」

開催日：令和 2 年 10 月 25 日（日）

内 容：南新保遺跡群（南新保 C 遺跡）の見学と体験発掘

参加者：親子 37 名

《過去 5 年間の事業実績》

実施年度	回数	タイトル
平成 28 年度	15	縄文土器写生大会 コラボ縄文ワールド開設 1 周年記念
	16	「集え！未来の考古学者たち！」
平成 29 年度	17	「金沢こども探検隊 in 松根城」
平成 30 年度	18	「金沢こども探検隊 in 金沢城」
令和元年度	19	「金沢こども探検隊 in 湯涌江戸村」
令和 2 年度	20	「チャレンジ！遺跡体験発掘」



遺跡の解説



体験発掘

(3) 市民ふるさと歴史研究会「縄文中期の富山と金沢」

市民ふるさと歴史研究会は、金沢市内の発掘調査の成果を市民に伝えるため、平成16年（2004）から行っている催しである。今回は、金沢縄文ワールドの企画展示「富山と金沢の縄文集落」（55 - 56頁参照）と連動した内容とした。また、新型コロナウィルス感染症の蔓延を防ぐため、参加者数を会場の本来の定員の半分とするなどの措置をとった上で実施した。

企画展は、河川の上中流に形成された河岸段丘上に位置する縄文時代中期の集落遺跡である、金沢市笠舞A遺跡と東黒牧上野遺跡を比較する趣旨で展示を構成している。また両者は三角壇形（三角柱状とも）土製品を検出していることでも共通点がある。

研究会では、東黒牧上野遺跡の発掘調査を担当した岡本淳一郎氏が、東黒牧上野遺跡の調査について図やスライド写真を用いて解説した。その後、展示室で笠舞A遺跡と東黒牧上野遺跡の出土品の解説を行った。

東黒牧上野遺跡は平成元年（1989）と平成6年（1994）に合計5,200m²あまりが発掘調査されており、20棟以上の竪穴住居が環状に配置されたことがわかっている。その中で、第1号住居の特殊性が注目された。第1号住居は他の竪穴住居の4倍近い面積をもち、明確な長楕円形の床面、二重に巡る柱穴、外周の柱穴を支えるように置かれた一対ずつの長方形の自然石など、参加者には初めて見るタイプの竪穴住居であったようである。なお同遺跡は平成5年（1993）に富山県指定史跡となっている。

列品解説は、笠舞A遺跡の出土品を金沢市文化財保護課課長補佐の谷口宗治が、東黒牧上野遺跡の出土品を岡本氏が行った。笠舞A遺跡の出土品では三角壇形・四角壇形土製品が、東黒牧上野遺跡では全形のわかる土偶が、特に参加者の興味をひいたようである。

講 師：岡本淳一郎（富山県埋蔵文化財センター所長代理）

実施日：令和2年11月21日（土）13:30～15:40

会 場：金沢市埋蔵文化財センター

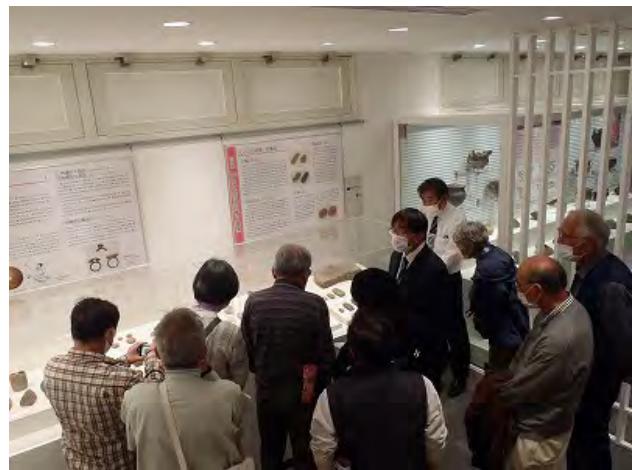
参加者：16名

《過去5年間の事業実績》

実施年度	タイトル	講師
平成28年度	「縄文晩期に北陸地方が繁栄したのは何故か」	泉 拓良 氏
平成29年度	「動物の骨は語る」	覚張 隆史 氏
平成30年度	「低湿地遺跡の世界」	荒川 隆史 氏
令和元年度	「千田北遺跡の木製笠塔婆」	向井 裕知
令和2年度	「縄文中期の富山と金沢」	岡本 淳一郎 氏



東黒牧上野遺跡の調査報告



企画展示の列品解説

(4) 史跡活用事業

一般市民に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的にイベントを開催、文化財愛護の精神を培う機会を創出している。小学校高学年から中学生およびその保護者が多く参加し、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。例年、チカモリ縄文まつりおよびチカモリ学習会、史跡フェスタみわを地元公民館と協働で実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため各イベントが中止となつたため、今回は埋蔵文化財センターで古代鏡作りの体験を実施した。実施概要は以下のとおりである。

なお、開催にあたっては石川県史跡整備市町協議会から助成金をうけている。

■ 古代鏡作り体験

シリコン製の鋳型を用いた銅鏡の鋳造体験。原型は金沢市が発掘調査を実施した下安原遺跡から出土した古墳時代の珠文鏡。市民が史跡に親しみ、郷土の歴史や埋蔵文化財に対する理解・興味を深めることを目的としている。参加者は低温溶解金属（融点 138℃）を鋳型に流し込み、古墳時代の銅鏡のレプリカを作成した。実施にあたっては、金沢文化財ボランティア「うめばちの会」の協力を得ている。

実施日：令和2年11月7日（土）

主な内容：鏡鋳造体験

参加者：21名

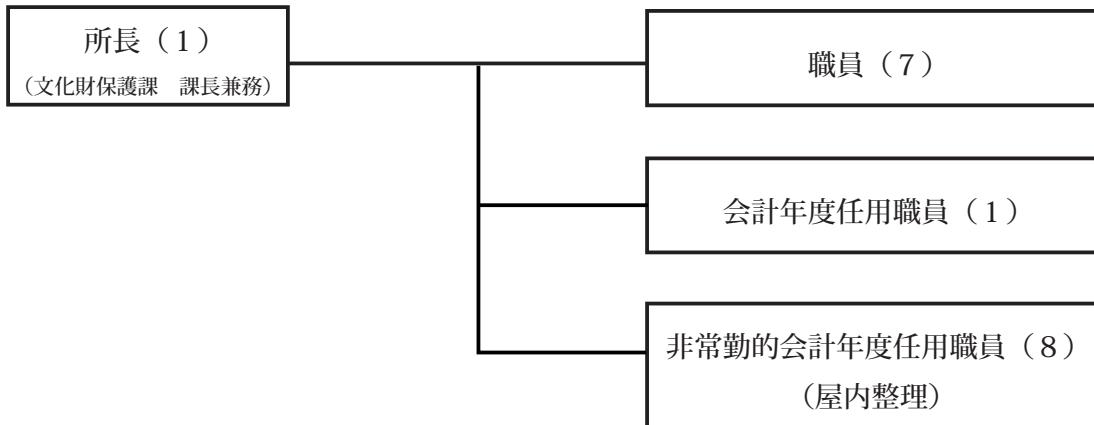
協力：金沢文化財ボランティア「うめばちの会」



古代鏡作りの体験の様子

4. 組織

令和3年3月31日現在



令和2年度 金沢市埋蔵文化財調査年報

令和3年4月30日発行

発行 金沢市
編集 金沢市埋蔵文化財センター
〒920-0374
金沢市上安原南60番地
TEL: 076-269-2451
FAX: 076-269-2452
Mail: maibun@city.kanazawa.lg.jp

